



千八

千八百七
十五年

神奈川貿易報告

三

3411



千八

114
A 3142



川 千八百七十五年十二月三十一日迄一周年
當港貿易報告書ニ左ノ表ヲ添ヘ謹テ閣下

ノ 閱覽ニ供ス

千八百七十六年五月八日在神奈川英國領事
館ニ於テ

英國領事 ロベルトソン

第一
英國公使 ヲル、ハアライ、パアク、ム閣下
輸入貿易表

大正十一年四月

第二

輸出貿易表

第三

船舶出入表

第四

貨幣輸出入表

第五

輸出入收稅并出入船舶手数

第六

料倉敷料表

第六

本港在留英人并英國商會及

左

各國居留人各國商會員數表

七

左二千八百七十四年間、貿易高ト同千八百七

五

年間、分トヲ掲載シ以テ之レヲ比較スベ

シ

千八百七十五年間、貿易高印チ左ノ如シ

輸入高

貳千九拾五萬三千九百〇九弗

輸出高

千貳百四拾六萬六千七百三拾弗

總計三千四百四拾貳万〇六百三拾九弗

是ニ依テ之レヲ視レバ千八百七拾四年間、貿

易高ヨリ増加スル一實ニ五百拾二萬五千七百

六拾八弗ナリ

右兩年間、貿易高比較表左ノ如シ

千八百七拾五年

輸入高

二千九百九十五萬三千九百〇九弗

輸出高
總計
千八百七拾四年
千二百四拾六萬六千六百三拾弗
三千四百四拾二萬。六百三十九弗

輸入高
千八百七拾四年
千六百七拾壹萬六千二百九十八弗
千二百五十七萬八千五百七十三弗

總計
又詳細ニ之レテ分別スレバ
二千九百二拾九萬四千八百七十一弗

輸入之部

木綿織物
千八百七拾五年
七百二十二萬九千六百。三弗

毛織物
貳百八拾六萬六千五百四拾三弗

毛織物
百。七萬二千二百九拾貳弗

金屬
六拾五萬五千四百八弗

武器類
四萬貳千五百貳拾弗

外國產
七百萬九千九百六拾弗

雜品
三百萬六千五百八拾三弗

總計
千八百七拾四年
貳千九拾五萬三千九百。九弗

木綿織物
七百。九萬二千二百五拾二弗

毛織物
百貳拾壹萬八百二拾四弗

毛織物
交織物
金屬
武器類
雜品
東洋產
雜品
總計

輸出之部

茶
繭
蠶卵

千八百七十五年
五百四拾貳萬四千九百拾六弗
四拾七萬四千九百貳十壹弗

茶
繭
繭
漆器
煙草
蠟
石炭
乾魚
雜品
總計

四百八十一萬三千四百五十八弗
拾八万四千七百拾弗
貳拾四万八千四百拾六弗
拾貳万八千三百三拾四弗
四萬三千九百二十五弗
貳千六百四拾弗
貳万三千九百五拾七弗
拾五万三千四百拾四弗
九拾六万八千三拾九弗
千貳百四拾六万六千七百三拾弗

千八百七拾四年

生糸	五百貳拾九万五千百九拾弗
蚕卵紙	七拾三万千貳百七拾五弗
茶	四百八拾四万三千三百五十七弗
銅	貳拾六万五千三百七拾八弗
繭	貳拾四万二千八百六拾二弗
漆器	拾六万四千九百五十五弗
煙草	三万千六百六拾弗
璫	二千五百七十九弗
石炭	一万四千八百七十弗

乾魚	拾九万三千百九十六弗
藥品	七拾九万三千二百五十一弗
總計	千二百五十七万八千五百七十三弗

輸入之部

木綿織物	增高二十万七千三百五十一弗
毛織物	增高百六十五万六千七百七十九弗
毛木綿物	增高千八萬八千百七十一弗
金屬	減高八万六千六百三十一弗
貳器類	增高二萬六千百七十八弗
外國產雜品	增高二百九十四万百七十弗

東洋産雜品

輸出之部

增高三十万五千六百五十三弗

生糸

增高拾二万九千七百二十六弗

蚕糸類

減高二十五万六千三百五十四弗

茶

減高二万九千八百九十九弗

銅

減高八万〇六百六十八弗

繭

增高五千五百五十四弗

漆器

減高三万六千六百二十一弗

蠟

增高六十一弗

石炭

增高九千〇八十七弗

乾魚

減高三万九千七百八十二弗

雜品

增高十七万四千七百八十八弗

右ノ如ク千八百七十五年間ノ輸入高ト千八百

七十四年間ノ分トヲ比較スレバ千八百七十五

年間ノ增高實ニ五百二十拾三万七千六百拾一弗

ナリ又千八百七十五年間ノ輸出高ト千八百七

十四年間ノ分トヲ比較スレバ千八百七十五年

間ノ減高只僅カニ拾一万千八百四十三弗ナル

ノ

曩キニ余ハ千八百七十四年間ノ貿易報告ラ是

スルニ際シ今年間当港輸入貿易高ヲ千八百七
 十三年ノ分ト比較スレバ千八百七十四年ノ減
 高二百八十一万九千四百六十弗ナル旨ヲ記載
 セリ然ルニ前文ノ総計ニ依テ之レヲ視レバ輸
 入貿易ハ十分ニ挽回シタルヲ見ルベシ試ニ看
 ヲ千八百七十五年ノ輸入貿易高ヲ以テ之ヲ七
 十四年ノ高ニ比スレハ恰モ五百貳十三万七千
 六百十一弗ノ増額アリ又千八百七十三年ノ分
 ニ比スレバ二百四十一万八千五百五十一弗ノ増
 額アリ但シ昨年(千八百七十五年)諸輸入品ノ價

値頗ゲル下落ナリシカ故ニ貿易ノ盛衰常ナレ
 之虽ハ亦敢テ衰態ヲ顯ハセリト云フ可ラザル
 ナリ然ルニ高買ノ利益ハ必ズシモ輸入貿易ノ
 タキヨリ生ズルモノニアラズ顧フニ當港ノ商
 賈ハ猶ホ依然激烈ナル競争ヲ為シテ止マズ加
 之ナラズ又那日本兩國内ニ於テハ屢々貿易上
 ニ種々ノ不幸アリテ為メニ貿易上ノ利益ヲシ
 テ殆ンド烏有ニ歸セシメシノミナラズ時トレ
 テ容易ナラザル損耗ヲ為シタルトモ亦鮮ナカ
 ラザリシナリ

昨年中本國ニツテ各種織物ノ價格次第ニ下
 落セシテ以テ其ノ影響ヲ當港ニ波及シ加フル
 ニ昨年ニ於テ銀價ノ下落セシメ為メニ当地ヨ
 リ輸送レル銀ノ價格ニ変動ヲ起セシラ思考
 スルニハ突ニ物品ノ下落ハ極メテ莫大ナリシ
 ラ推知スルニ足レリ回ヨリ當港ノ高買ハ大抵
 物品ノ着港スルニ否成ルベク高價ヲ以テ之レ
 ラ販賣センコトヲカント虽氏當港ノ如キ狭小ナ
 市場ニ於テ之レヲ為スハ極メテ難ク且ツ特
 ニ難キノミナラズ時ニ由テハ運モ行フ可ラガ

ルノ恐ナキアタハズ想フニ千八百七十五年ノ
 價格ト千八百七十四年ノ歲暮ニ於ケル價格ト
 ラ比較スレバ其差ノ大ナルコトハ貿易ニ関涉ス
 ル者ノ明知スル所ニシテ遠ク余ノ及ハサル所
 ナレバ今此ノ報告ニ於テ此等ノ事情ヲ詳細登
 録スルハ寧ロ蛇足ニ屬スルカ如シ故ニ亦贅セ
 ば且シ高買カ本國ヨリ貨物ヲ仕入レタルヤ極
 ナテ廉價ナリシニ相違ナシト虽氏結局損失ヲ
 為サズシテ之ヲ賣捌クコトヲ得シハ極メテ多カ
 ラザル可シ

一擔ハ我
拾六貫目

今左ニ輸入品中ニ就キ評論ヲ要スベキモノ一
ニヲ掲載シテ以テ聊其景況ヲ述ヘ
木綿糸ノ事
亦綿糸ハ後々大ニ増加シテ昨年(七十四年)ノ輸
入高ニ超ヘタルヲ三万四千三百二擔^{拾六貫目}ニ至レ
輸入人ガ甚シク其ノ價值ヲ下ケシニ依ッテナ
ル可レ且ツ尤モ需用アル種類ハ重モニ十六号
ヨリ二十四号迄ノ間ニ止マリ最上ノ品ハ一般
ニ望手之レナク相當ノ價值ヲ得ル能ハカリレ
金巾之事

一碼ハ我曲尺
三尺一分二厘

金巾ニ昨年(七十四年)ヨリ減少スルヲ突ニ千万
碼^下余ノ多キニ及ベリ余ヲ以テ之レヲ視ルニ金
巾ノ斯ク減少セシハ全ク木綿糸ノ消耗高増加
セレニ依ルモノトス其然ル所以ノモハ他ニ
シ日本人多クハ木綿糸ヲ以テ金巾ヲ製シ当地
ニ輸入スル金巾ヨリモ一層需用ニ適スレニ
ラ織リ出タレタルカ故ナリ又金巾ノ需要モ矢
張り木綿糸ノ如ク下等ノ種類ヲ以テ多シトナ
ス是ニ依テ之レヲ視レバ仮令ヒ金巾ニ濫製多
ク往々粗悪ノモノアルニセヨ日本買客ノ所望

ニ適スル以上ハ其流行ニ抗抵シテ徒ニ口吻ヲ
入ルハ寧ロ無益ニ属セリト云フ可シ況ンヤ買
客タルモ其純粹ナラサルヲ明知シテ然ル後
之ニ溝買スルニ於テマヤ

小巾金巾ノ事

小巾金巾ニ付テハ別段論弁スベキモノナレ其
需用ハ一定セシテ変易常ナク且ツ大抵ハ海
陸軍者并ニ其他諸官廳ノ用ニ属スル一恰モ雲
青木綿ト全一ナリ
更紗ノ事

詠品前数年ノ輸入高甚僅小ナリレハ昨七十五
年輸入増加^リ起シタル基^{トナリ}試^ニ之^ヲ前年ノ高ニ比スレバ二
倍余ナルヲ以テ稍々挽回ノ色アルヲ知ル可シ
綿繻子ノ事

此品ノ輸入高ハ千八百七十四年ノ高ヨリ増加
スレ^ト殆ンド四倍ノ多ニ及ベリ想フニ昨年ノ
相場甚々安ク輸入人ニ取リ込モ利益無キ程ナ
リシヲ以テ為メニ費耗ヲシテ大ニ増加セシ
メタルナルベシ

唐棧ノ事

唐棧ノ輸入高ハ前年ノ数ト増減ナシ而ルニ其
 價格ハ前年ヨリ餘程低價ナルモ尚ホ且ツ買客
 ラ得ルヲ能ハズ又商法會議所ノ報告ニ於レバ
 千八百七十四年ニ於テハ該品ノ蓄積高二万五
 千擔ナルニ七十五年ハ六万四千二百六十六擔
 多キニ居レリ故ニ該品ノ輸入ニ増減ナキ所以
 ノモハ余カ昨年ノ報告書中ニ於テ述ヘタル
 カ如ク果シテ内國ニ於テ該品ノ製造ヲ再興シ
 カルニ因テ其輸入ニ響キタルニ相違ナキカ如
 シ猶ホ此外ノ木綿物ニ至テハ記載スベキ程ノ

差違ナシ然レハ多分ニ昨年ヨリモ輸入高増加
 セリ^綿繻緋并ニ股引ノ類ニ至テハ左ニテ緊要
 ナル條款ニアラザレバ又聊其概況ヲ吐露セザ
 ルヘカラス

(一) 月一スレバ
 我拾二

抑モ千八百七十三年ニ於テヤ該品輸入ノ員數
 ハ十三万九千九百十三トゾンニレテ此代
 價五十万〇八千四百四十六弗タリ翌千八百七十
 四年ニ於テハ輸入高漸ク減シテ四万八千三百
 三十七トゾン其代價十六万九千二百〇二弗
 ニ至リタリ然ルニ昨年ニ及ンテバ只僅ニ六千

三百八十二¹ド¹ズ¹ニ減少シ代價モ又随ツテ
 五万。五百七十九弗ニ減少シタリ畢竟斯¹ノ
 如¹ク年々減少スル所以¹ノモノハ西洋服ヲ用ユ
 ル者漸々減少スルニ依ルカ然レ¹ハ前年中ノ輸
 入高頗¹ブル巨額ニシテ遙¹カ内國需用ノ度ニ起
 越¹セシニ依ルト云ハハ必ズ適中スルニ似タリ
 毛織物ノ事
 此品ノ輸入高千八百七十五年ニ於テハ二百八
 十六万七千五百四十三弗ニシテ千八百七十四
 年ニ於テハ百二十一万。八百二十四弗ナリ故

ニ前年ヨリ増加セシ¹實ニ百六十五万六千七
 百十九弗ナリ是レ畢竟佛製ノ縮緬吳呂服ノ輸
 入高巨多ナルニ依ルモノナリ看ヨ此品而已ニ
 テ千八百七十四年ノ輸入高僅ニ九十の七万一
 千三百二十五弗ナリシニ千八百七十五年ニ於
 テハ二百三十九萬三千百五十七弗ノ巨額ニ及
 ビナリ
 佛製吳呂ニ模様ヲ添ムルノ事ニ付巴里府ノ某
 記載セル備忘一冊幸ニ余ノ手ニ入ルモノナ
 リ其書中載¹スル所此吳呂ノ製法ニ属スル難事

ヲ以テシ殊ニ板締并ニ遊仙深ノ兩種ニ付テハ
能ク其製造ノ法ヲ論辨シタリ果シテ如斯クセバ
日本人ノ嗜好ニ適スルヤ必セリ今其書中ヨリ
其難事ヲ左ニ列載シテ以テ三條トナス
第一絹縞紗ト全一ノ影ヲ生出スルヲ難
ス

茅ニ模様ノ影ヲ育シクスルヲ難シトス
茅三敷色ノ模様ヲ一度ニ深ムル時ニテモ其雛
形ニ數種ノ影現ハルモノヲ防クヲ難シトス
又其記録中ニ云ク此等ノ差違ハ總テ模様ノ性

質ニ依ツテ生ス其然ル所以ノモノハ他トシ或
レハ其型ヲ彫刻スルヲ深キヲ要レ随ツテ着色
モ多キヲ要スルカエナリ

此等ノ模様ヨリモ一層密ニ涉リテ入組ニクル
モノニ至テハ入組ニザルモノヨリモ其色薄ク
ナリ易シ且ツ又此ノ吳呂ヲ洗ヒ及ヒ之ヲ空氣
ニ晒ス時ニ當リ天氣ノ晴雨ニ依リ深色ニ差異

ヲ生スルヲアリト
以上ノ概況ハ殊ニ板締深ニ付テ言フモノナリ
遊仙深ノ事ニ付テハ模様ノ付方實ニ完全ヲ極

メタリ尤モ影ノ差異又ハ其外些少ノ差違アリ
 テ困難ヲ免レザルカ故ニ模様ノ工合等一ニ之
 レニ委任セザレハ深工ハ注文ヲ引受ケズ加フ
 ルニ彫刻師其型ヲ為スニ非レバ之ヲ深ムル
 能ハザルカ故ニ豫メ注文品ヲ渡スノ日限ヲ定
 約セスト云フ且ツ此ノ深工ハ其員限リアリテ
 頗ブル稀少ナルヲ以テ僅々ノ職工此事業ヲ專
 有シ人ヲシテ余倭ナリ其深工カ擇フ所ノ約
 定ニ從ハザルヲ得ザラシム余深工呂ノ見本ヲ
 一見シテ佛國ノ深工ハ實ニ其巧妙ヲ極メ其声

名ノ果シテ虚ナラザルヲ信スルニ至レリ

綿吳呂ノ事

此品ノ輸入ハ昨年ノ表ニ於テハ別項ニ掲載セ
 リ想フニ前年ハ毛製玩弄物ノ部ニ混シタルニ

由ツテナリ

ブランケツト之事

此品ノ輸入高増加セシトハ實ニ著明ナルモノ

ナリ

羅紗之事

羅紗ハ輸入高ハ依然進動ノ勢ナク隨テ蓄積高

モ減少セシト 且ニ價格常テ昇騰セズ 是レ則チ
 國人未ダ充分ノ富ヲナサズシテ 此品ヲ購買ス
 ルノ力ニ乏シキヲ信スルニ足ル可シ
 毛木綿製造物ノ事
 此品ノ輸入高増加セシト 拾八万八千百七十一
 弗ナリ

毛縞子ノ事

毛縞子ハ前年ヨリ 低價ナルヲ以テ 大ニ需用ヲ
 増加セリ 其輸入高前年ヨリ 十五万八千三百
 八弗ノ多キヲ加ヘリ 一オトルレンスレ及ビ 一トル

ス、輸入高ハ 三十五万五千八百八十三弗ノ増加ア
 リ 但シ毛綿交織物ノ部ニ於テハ 貳拾九万七千
 四百四拾三弗ノ減額アリ 然レモ此毛綿交織物
 ノ輸入高ハ 税関ノ輸出入表ニ記載スルモノト
 異ナル所アリテ之ヲ調理スルト能ハサルナリ

武器并彈藥ノ事

此品ノ輸入高増加セシハ 全ク征召ノ事ト及ビ
 朝鮮ト兵端ヲ開クノ勢ニアリタルニ歸ス 但シ
 武器并彈藥ノ市場ニ輸入セシモノ 甚少ナリ
 ト 雖モ多クハ 政府公用ノ為メニ輸入セシトハ

外國產雜貨ノ部ニ就テ明了ナルベシ
諸金屬ノ事

千八百七十五年ノ輸入高ハ六十五万五千四百
八弗ニシテ千八百七十四年ノ輸入高ハ七十四
万貳千三十拾九弗ナリ畢竟斯ノ如ク輸入ノ價格
減少セシ所以ハ重ニ相場ノ下落セシニ由ルモト
ナ余カ聞ク処ニ批レハ鉄塊及ヒ熟鉄共其輸入
高増加シ殊ニ熟鉄品ニ至テハ一層ノ増加アリ
テ而シテ猶此ノ價格ノ減少セシモノハ他ナシ
其價值其^甚下落シテ大ニ損失ヲ蒙リシニ由テナ

外國產雜貨ノ事

千八百七十四年外國產雜貨ノ輸入高ハ合計四
百〇六万九千七百九拾弗ニシテ其ノ中百貳拾
五万九千百拾五弗ハ官用品ノ代價ナリ即チ租
稅寮貿易統計表中ニ別目ヲ設ケテ掲載スルモ
ノタリ故ニ外國產雜貨ノ高ハ官用品ノ代價ヲ
除ケハ七十四年ノ輸入惣計ハ實ニ貳百八十一万
〇六百七拾五弗ナリシテ明ラカナリ然ルニ昨
年(千八百七拾五年)ノ輸入高ハ三百八十九万

四百二十四弗ニシテ官用品ノ分ハ全ク此外ニ
 三百拾一万九千五百三拾五弗アリ故ニ此二口
 ヲ合計スレハ七十五年外國産雜貨輸入ノ高ハ
 實ニ七百〇。九千九百六拾弗ナリ同年中官用
 品ヲ除キ其他ノ品々ニ於テ殊ニ増加セシハ右
 腦油、麦酒、葡萄酒、燒酒類、藥劑品、掛時計、帆木綿、文
 房具、其他絹織物ナリ藥劑及ヒ時計ノ門ニ付キ早
 見ヲ以テ之レヲ視ルニ此品輸入多キニ過キ為
 メニ價格ノ減少ヲ致シ利ヲ得ルヲ少ナカリシ
 石腦油ノ輸入ハ千八百七十四年ニ比スレバ

實ニ巨額ノ増加アリト雖モ要スルニ此ノ高
 買ニ從事スル人々ノ為メニハ不利ヲ生セリ
 然レモ尚米國産餘分ノ産出ヲ捌ク所ヲ發見
 セサル可ラズ
 右官用品代價三百拾一万九千五百三拾五弗ノ
 中百八拾万〇八千六百〇九弗ハ兵器及ヒ彈藥
 ノ代價ナリ此レ臺灣征討ノ件ニ付支那ト葛
 藤ヲ豫備スル為メニ買上タルモノナリ
 外國産雜貨ノ部ニ於テ又ブランケットノ輸
 入高拾七万九千二拾弗アリ

東洋産雜貨ノ事

東洋産雜貨ノ輸入高ハ前年ヨリ増加スルヲ三拾万。五千六百五拾三弗ナリシ右ノ中砂糖ノ貿易最ニ盛昌ニシテ此輸入高七拾万弗余ノ増加ヲ生セリ是皆多クハ支那人ノ得ル所ニ係ル其他ノ品々ニ至テハ皆一般ニ不景氣ノ歎ナキヲ却ハ即チ綿糸ノ消耗高増加セシ所以ニシテ亦

綿糸ノ事

此輸入高ハ貳拾万弗ノ減少アリ然レ氏此ノ減却ハ即チ綿糸ノ消耗高増加セシ所以ニシテ亦

敢テ患トスルニ足ラサルナリ
 各地領事館ヨリ貿易報告書ニ輸出表ヲ差出シタル後公使館ニ於テ編輯セラル、貿易概表中千八百七十五年當港ニ於テ四艘ノ蒸汽船ヲ日本人ニ賣込ミタルハ突ニ注目スベキモノナリ尤モ右四艘ノ中英船ハ一艘ニシテ此代價拾六万六千貳百五拾弗余ノ三艘ハ米船ニ係リ此代價五拾八萬五千八百弗總計七拾五万二千。五拾弗ナリシ
 余ハ之レヨリ輸出品中重立チタルモノ、貿易

景況ニ論及スル左ノ如シ
生糸ノ事

千八百七十五年間生糸ノ輸出高ハ當港税関ノ報告ニ拠レハ其價值五百四拾貳万四千九百拾六弗ニシテ數量一万千八百拾三擔八拾七斤ナリ然ルニ千八百七十四年ノ輸出高ハ其價格五百二十九万五千百九拾弗ニシテ數量九千七百七拾五擔七拾三斤ナリ故ニ千八百七十五年ノ輸出高ハ千八百七十四年ヨリ多キヲ數量二千。三拾八擔拾四斤金額拾

貳万九千七百二十六弗ナリ
右ノ總計ニ依テ之レヲ觀レハ千八百七十五年間ノ生糸ハ千八百七十四年ヨリモ一層下落セシハ一日シテ瞭然タルベシ
右生糸輸出包數ヲ計算スルニ千八百七十四年ノ高ハ一万千九百八十五包ニシテ千八百七十五年ノ高ハ一万四千五百九十八包ナリ
千八百七十四年ヨリ千八百七十五年ニ跨ル會計年間(會計年間トハ即チ千八百七十四年七月一日ヨリ翌千八百七十五年六月三十日マデニ

レテ生糸及ヒ茶ノ輸出ヲ算スルニハ一月一日
 ヨリ十二月三十一日マテノ一周年ヲ以テスルヨ
 リモ商人ノ為メニ一層便益ノ算法ナリ）ノ輸出
 ハ一万九百四十一包ニシテ普佛戦争アリテ
 為メニ欧州生糸ノ消費高頗ブル減少シタル時
 限即チ千八百七十年同七十一年ノ一周年ヲ除
 キ千八百六十一二年會計年度以來最僅少ノ輸
 出高ナリ
 当港生糸商買ノ景況ヲ論スルニハ七十四年同
 七十五年會計年度中輸出高減却セシ所以ノ事

情ヲ推究セザルベカラヌ故ニ余ノ論弁スル所
 モ此事情ニ基ツカホル可ラス昨年ノ輸出入
 年報ニ依テ之レヲ視レハ船積高千八百七十
 四年ヨリ巨額ノ増加アリ随ツテ其價格モ僅少
 ノ増額アリシト虽モ七十四五年會計年度輸出
 ノ減却シタル原因ヲ表示セントテ勤ムベシ今
 其減少ノ原因ニ論及スルニ先立チ余ハ千八百
 七十五年間生糸市場ノ概況ヲ畧説セントス
 扱テ千八百七十五年ノ首メニ於テ現ニ販賣未
 済ノ生糸凡一千六百包ノ高市場ニアリタリ而

シテ一月ハ取引極メテ僅少ナリシ之レハ畢竟
 日本生糸商人ハ相場ノ騰貴スルヲ待ツテ輕々
 シク販賣スルヲ好マザリシニ依レリ去リナ
 カラ其ノ品柄一般ニ下等ニシテ粗悪ナリシヲ
 以テ價格追々下落ノ方ニ赴キ提糸ハ一擔ニ付
 四百六拾五弗ヨリ四百九十弗ノ相場タリシ
 二月ニ至リテハ稍々景氣引立テ一月ヨリモ多
 クノ取引アリ日本生糸商人ハ尚其上等ノ品ヲ
 市場ニ出スヲ欲セズ堅ク之ヲ蓄ヘタリト虽下
 品ハ追々低價ニテ手離サンテヲ欲スルノ氣込

トナリタリ先ッ第二号半ノ提糸ハ一擔ニ付
 四百五十弗ヨリ四百七拾五弗第三号第四号ノ
 如キ下等ノ品ニ至テハ平均相場四百四十四弗
 ヨリ四百貳拾弗迄ニ下落セリ然ルニ奥州糸ハ
 當時品乏シク價格ノ高低ナシ三月ノ上旬ニハ
 尚一層ノ低價ヲ以テ並ノ提糸取引アリ上等ノ
 品ハ矢張り賣リ出スモノナクサレモ市場ニ見
 へズ奥州糸ハ品少ナク随ッテ高價ヲ占メタリ
 遂ニ此月ノ終ニ及ンテ並糸ノ取引漸々減少シ
 愈々一層良品ヲ需ムルノトナリ奥州糸ノ需求

類リニ増加シ前金ヲ拂フテ數個ノ包ヲ買入ル
 至レリ下等糸第^三号第^四号ノ如キハ二月中
 平均相場四百四十弗ノ處迄々下落シテ三百七
 十五弗迄ニ至リ又第^二号半ハ四百三十弗ヨリ
 四百七拾弗ノ相場タリ且、奥州糸上等ハ五百弗
 ヨリ五百二十弗最上ハ五百四十弗ヨリ五百六
 十弗ノ價格ニ及ヒタリ
 四月ニ至リテハ糸ノ品種何レモ皆非常ノ取引
 アリタリ之レハ畢竟日本生糸商人多ク當市場
 ニ輻輳セシニ由ルモノトス提糸ハ益々景気良

シカラサルニ強テ販賣セントスルヲ以テ中等
 下等糸々下落シタリナレ月未ニ及ンテ再々
 景気ヲ取直シ立^立越ヒタル品ハ殊ニ然レリ
 奥州糸ハ引續キテ拂底ナルト日本生糸商人ノ
 占有レテ容易ニ手離ササルトニ依ツテ取引
 至テ少ナシ下等提糸三百三十拾弗ヨリ三百六十
 弗第^二号半上等ノ包ハ四百十弗ヨリ四百五十
 弗ノ價格タリ奥州産ハ少シモ相場ノ差違ナシ
 五月ニ至リテハ取引一層減少セリ之レ當港内
 在荷ノ減少シタルト品柄ノ粗惡ナルトニ依テ

然ラシムルモノナリ且ツ漸ク新蚕糸出来上リ
ノ期ニ近寄リタリハ商人ハ強テ需求ヲ為サ、
レ氏従前ノ相場ハ依然トシテ著レキ低昂ナカ
リレ

千八百七十四年ヨリ七十五年ニ涉ル會計年度
將ニ終ラントスル六月ニ及レテ賣客ノ中ニハ
頗ク其賣残セシ提糸ヲ販賣セントスルモノ鮮
ナカラスト虽尚堅ク保持シテ賣捌カサルモノ
モアリタリ故ニ價格一定セス時トシテハ一層
ノ下落ヲ生セシトアリ是レ下等品ニ至テハ品

柄ニ交サリアリテ一様ナラザルカ故ナリ獨リ
奥州産ハ相庭ニ変化ナカリシ六月ノ終リニ及
シテハ在荷漸ク減少シテ凡ソ二百包程ニ至リ
並ノ提糸ニテ三百三拾弗ヨリ三百六拾弗ノ相
場ヲ占メ第貳号半ハ三百九拾弗ヨリ四百二拾
弗ノ價格タリサテ又月末ニ及ビ新提糸ノ小包
二個当市場ニ出テ品柄ニ依リ三百五拾五弗ト
三百八拾弗ハ相場ニ届キタリ右ハ何レモ大小
混合シ且ツ箱入レニテ不潔ヲ極メタリ
七月中取引ノ高ハ僅ニ百五拾包ニ止リ内新製

係ルモノハ漸ク四拾包一擔ニ付三百六拾弗
ヨリ三百八拾弗ノ相場ニ達セリ古キ方ハ下等
ノ提糸ノミナルヲ以テ三百三拾弗ニ止マレリ
尤モ全月中新糸ノ到着セシ高ハ僅ニ五拾包ニ
超越セサリキ是レ畢竟日本ノ糸高等ハ政州
ニテ糸ノ價下落セシトノ報ニ依リ外容ヨリハ
却テ内國ノ製造人ノ之レヲ需用スルノ多キト
見込ミタルニ依テ然ルモノナリ
八月ニ至テハ生糸陸續内地ヨリ當市場ニ来リ
買手モ前ノ相場ヨリ遙カニ高價ヲ以テ之レヲ

購買シ殆ント月末迄断ヘス需用多カリシカ生
糸商人ノ虚托強増長セシヲ以テ一時需求ヲ妨
ケタルノ姿トナレリ第ニ号半上等ノ提糸ニテ
四百弗ヨリ四百二十弗第三号中等ヨリ第四号
下等ニテハ三百七十弗ヨリ四百弗ノ價ヒナリ
中等提糸ノ出来キ方ハ昨年ノ生産ヨリ改良ス
ル所ナレ然レ氏最上ノ提糸數包ハ四百六拾弗
ヨリ四百八十弗ノ相場ニ至リタリ
奥州産ノ紡絲ハ政州大陸(即チ伊太利)ノ買客
之レヲ購買セリ其價格ハ六百弗ヨリ六百三十

弗ノ相場ナリ中等奥州茶五百二十弗ヨリ五百
 五十弗ノ相場ナリ此ノ月ノ末ニ至ラハ在荷高
 五百包ニ増加ス
 九月ニ至リ取引復々景気ヨク提糸ノ價值下等
 ノ品ヲ除クノ外漸々昇騰セリ奥州糸ノ到着ス
 ルモノ極メテ多ク随テ在荷ノ高増加スルニモ
 拘ハラス依然需求多ク價格モ又動カズ最上ノ提
 糸ハ四百六十弗ヨリ四百九十弗第二号半上等
 ハ四百弗ヨリ四百三拾五弗第三号下等ノ品ハ
 三百六十弗ヨリ四百弗ノ相場ヲ占メ又最上奥

州産ハ五百三十弗ヨリ五百五十弗中等奥州産
 ハ五百弗ヨリ五百二十弗ノ價格ナリレ月末ニ
 及ンテ在荷高殆ント一千包ニ至リタリ
 十月ハ售レ口稍伸縮アリシト虽其全局ニ就テ
 論スレハ取引頗フル盛昌ニシテ價格モ亦浮動
 セサルカ如シ中旬後ニ至テハ重モ、ニ中等下等
 ノ提糸ト并ニ粗製ノ奥州濱付糸ヲ探求セリ然
 ルニ右提糸并ニ奥州糸ノ最上ノ分ハ需求モ薄
 ク随ツテ價格モ下落ノ方ナリキ紡絲若干包歐
 州大陸へ廻送ノ為メ五百五十弗ヨリ六百七十

弗迄ノ相場ニテ取引アリ又小包一個米國廻シ
 ノ為メ取引アリタリ内地ヨリ到來ノ品巨額ナ
 ルヲ以テ在荷、高又々増加セリ
 最上提糸四百七十弗ヨリ四百九十弗第二号半
 上等提糸四百二十弗ヨリ四百三拾五弗
 第三号ヨリ第四号迄中下兩等提糸ハ三百七
 十弗ヨリ四百拾五弗ノ相場ナリケリ月末、在
 荷凡一千三千包
 十一月上旬ニハ取引益々盛大ヲ極メ價格依然
 トシテ動カサリシガ本國ノ市場ヨリ凶報、未

リシニヨリ為メニ當地ノ生糸商ハ價格低價ナ
 ルモ筆テ其所持品ヲ販賣スルニ至リタルカ故ニ生
 糸ノ種類總テ十弗ヨリ貳十弗迄ノ下落ニテ巨
 額ノ取引行ハレタリ就中下落ノ最モ甚シキモ
 ノ提提糸等ノ上等品ニシテ及テ中等下等ノ品
 種ニ至テハ下落ノ影響ヲ受クル薄ク而シテ奧
 州糸ハ市場ニ在ルモノ極メテ拂底ナリシヲ以
 テ為メニ實ニ僅ノ下落ヲ受ケシ而已最上提糸
 四百五十弗ヨリ四百七十弗第二号半上等提糸
 四百十弗ヨリ四百二十五弗第三号第四号並品

ハ三百六十弗ヨリ三百八十弗上等奥州糸ハ四
 百八十五弗ヨリ五百十弗マテ濱付ハ四百三十
 弗ヨリ四百七十弗ノ相場タリ
 十二月ノ首メニハ前月ノ立相庭ニテ可ナリ取
 引アリ其需求ハ重モニ中下兩種ノ提糸ニ販レ上等
 ノ品ハ日本生糸商人追々ニ之ヲ市場ヨリ他ニ
 轉セリ此月下旬欧州ヨリ大山報ノ達スルアル
 ヲ以テ買客ハ非常ノ低價ヲ以テ買入レントヲ
 勤メタレ凡何分生糸商人ノ之ヲ肯セサリシヲ
 以テ為メニ取引減縮ヲ致セシト鮮少ナラス

最上ノ提糸ハ四百三十弗ヨリ四百五十弗第二
 号半上等ハ三百九十弗ヨリ四百〇五弗第三号
 ヲリ第四号迄ノ中下兩種ハ三百五十弗ヨリ三
 百六十弗ノ價格ナリシ
 奥州糸取引ノ高ハ誠ニ僅々ニ止マレリ尤モ上
 等ニテ五百弗ヨリ五百二十弗濱付糸ハ四百二
 十弗ヨリ四百五十弗月末ニ及ンテ在荷高凡ソ
 千二百包ナリシ
 千八百七十五年間當港生糸貿易ノ景況大畧此
 如シ想フニ生糸ノ相庭ヲ掲クルハ該貿易ニ

付テ考案ヲ下スカ為メニハ最モ緊要タルヲ以テ詳カニ之ヲ列載シタレハ可成ハ煩ヲ去リ簡ニ就キ其稍不用ニ属スルモノ、如キハカメテ之ヲ省キタリ尚ホ又七十四年同七十五年ノ會計年度間生糸貿易ノ衰頹セシ原因ヲ推考スルニ先クチ七十五年間生糸貿易ノ大要ヲ再考セントス

蓋千八百七十五年ノ上半期ハ前段已ニ掲載セシ如ク生糸ノ直段下落シタルヲ以テ日本生糸商人ニ取リテハ阻敗ノ状ナキ能ハズ又輸出入

ニ取リテモ本國ニ於テ其相庭次第ニニ下落ニ趣キタルヲ以テ亦横濱相庭ノ下落ヲ祝賀スルノ理ナキカ如シ到底一月ヨリ六月マテ本港ニ於テ買込ミタル生糸ノ價ハ廉直ナリシニ相違ナシト虽之ヲ本國ニ賣捌キテ利益ヲ得シハ甚タ稀レニ損失ヲ蒙ルルモノ及テ多キニ居レリ

前既ニ記載セシカ如ク六月ニ至リ新製生糸ノ當港ニ来着スルモノハ僅々二三ニ過キズ繼テ七月ニ及ヒ追々ニ着港セシ生糸ノ品柄ヲ以テ之ヲ前年

ノモノト比較スレハ其美惡如何ニ付衆説區々
 ニレテ一定スルナリ新提糸ハ大抵太クシテ且
 強ク丈夫ナルヲ此ノ上ナシト虽精粗ノ混合
 スル最モ甚ク且清潔ナラス之ヲ要スルニ
 七十四年ノ糸質ヨリ良好ナリト言難ク全局ニ就
 テ之ヲ言ハハ或ハ前年ノ糸質ヨリ劣リタリト
 言フモノアリシ程ナリ六月下旬ニ至リ尚ホ前
 年ノ産ニ係ル古糸二千包ヨリ三千包程賣残リ
 テ内地ニアリ而テ之レ等ハ終ニ皆千八百七十
 五年新製ノ糸ト混交シテ當市場ニ未リ新糸

トシテ販賣セザルベカラサリレモノタルトハ一
 般ノ了知スル所タリシ
 生糸産出高ノ多少ヲ論スレハ千八百七十五年
 ノ収獲ハ千八百七十四年ノ高ヨリモ一層巨額
 ニ及ビタリ然レハ繭ノ性合ハ依然旧ノ如クニ
 シテ別段昨年ニ優リタルトナキモノ、如シ
 千八百七十五年間産出セシ繭ノ内ニテ二三地方
 ノ産ハ他ニ超越セシト虽奥別製ヲ以テ第一等
 トス之レニ反シテ止州并信州ノ兩地ニ産スル
 並提糸ハ尋常ヨリ不潔タリシカ如シ

品

千八百七十五年間ノ蚕糸ニ付テハ、仮令衆説如何ナルニモセヨ、各地方ニ建設セル製糸場ノ製産ハ著シキ進歩ヲナシタリト言ハサルヲ得ズ、就中奥州上州及ヒ上州ノ製糸場ニ生スルモノ、如キハ其捲方、欽州ノ方法ニ倣ヒタルヲ以テ、右ノ製糸場所有主并ニ支配人ニ面目ヲ生セシメリト言フ可シ。

千八百七十五年下半期間ハ、右ノ各製糸場ヨリ、未港ニシタル蚕糸ハ五百弗ヨリ六百八十弗ノ直改ニテ巨額ノ販賣アリ、余ヲ以テ之レヲ視ルニ

此ホノ生糸ハ、欽州大陸ニアツテ之レヲ使用セル製造人ボヲシテ満足セシメタルヤ、疑ヲ容ルヘキモノナシ、然レハ英人ハ幾何ノ高ヲ用ヒシヤ、否ヤ得テ知ルベカラス、又此ボノ糸ヲ輸出セシ者ノ損益如何亦余ノ得テ知ル所ニ非ス、尤モ此ボノ糸ハ、彼ノ伊太利産及ヒ佛國製産ノ蚕糸ニ類似シ、通例日本古製ニ非ルヲ以テ、現今ノ如キ、欽州製最上生糸ノ景気宜シカラスレテ、價格壓迫セララル、ノ日ニ當ツテ恐クハ其影響ニ依リテ多少其壓迫ヲ蒙ルヤ必セリ。

品

余ハ將サニ日本生糸ノ貿易上ニ不景氣ヲ醸出
 シタル原因ト併セテ生糸殖産ノ景状ハニ將未生
 糸ノ貿易如何ニ付聊卑見ヲ吐露セントス但シ
 今余カ論スル所ハ一千八百七十四年七月一
 日以降翌七十五年六月三十一日マデ會計年度
 間ノ輸出ニ係ルモノナリ此會計年度間ノ輸出
 高ハ夫ノ普佛ノ戦争アリシ七十年同七十一
 年ノ會計年度ヲ除キテハ千八百六十年末尤モ
 少額ナリシモノナリ抑モ蚕糸貿易ノ斯ク減少
 セシハ恐ク日本収獲ノ不足セシニ由テ来リシニ

非スシテ一ハ政人一般ニ日本生糸ノ性合粗悪
 ニ流ルヲ以テ政人此糸ヲ消耗スルモノ、減
 少セシト一ハ伊太利佛蘭西ノ兩國ニ上等ノ糸
 産殖追々増加シテ日本蚕糸之レト額頗ル能
 ハス為メニ欧州ノ市場ヨリ放擲セラル、ニ依
 テ然ルモノナリ且生糸價格當地ニ於テハ頗ル高
 價ナルニ欧州諸國ノ市場ニテハ低價ナリシラ
 以テ輸出入モ此オノ事情ヲ觀察シテ大ニ其輸
 出ヲ扣ヘタルヤ推シテ知ルベキナリ
 伊太利及ビ佛蘭西製ノ上オ品ハ需求高數ケ月

品

間非常ニ減少シ其價格ニ漸々下落シタリ之レ
 ニ反シ其最モ需要多カリシハ價ノ廉ナル下等
 品ノミナリシハ亦奇トスルニ足ルモノナリ
 輓近時様一変セシヨリ人々下ボノ生糸ヲ好ム
 ノトナリ支那製ノ如キハ尤モ之レニ遠スル
 所ヲ以テ為メニ欧州ニ輸入スルモノ益々増殖
 セント茲ニ數年間ナリ而シテ其價格ハ極メテ
 廉ニシテ殆ント諸國ノ糸ヲ壓倒スルノ勢ニア
 リ日本製生糸ノ如キハ外國ノ使用ニ供スル為
 マニ大抵其線方細クシテ甚ダ佛蘭西并ニ伊太

利製ノ糸ニ類似セリ故ニ欧州産ト感衰ヲ共ニ
 シ其糸價下落セバ日本糸モ亦隨ツテ下落セザ
 ルコト得ズ
 今茲ニ尤モ注目スベキモノアリ千八百七十五
 年ノ上半期中當港輸出ノ高ハ僅カニ九ノ五千
 八十八包ニ止マリシト虽氏同年下半期中ニハ
 九千五百十包ニ増加スル即チ是レナリ余カ聞
 クルニヨレバ此増加ハ日本生糸ノ需求挽回セ
 シカ為メニアラズ只為替ノ相庭古来未曾有ノ
 下落ナリシヲ以テ投機者ヲ鼓動セシメタルト

品

帝ニ僅少ナルニアラズ一ハ外国ノ商賈其輸入
 セシ物品ノ代リヲ本國ニ送ラント欲スルモノ
 ハ多クハ為換ヲ組ムニ手形ヲ海外ニ輸送スル
 ハ損失多キヲ以テ争テ生糸ヲ輸出セシニ由リ

千八百七十五年ノ下半期中輸出セシ生糸中全
 ク三分ノ一ハ輸入物品ノ代價ニ充テタルモノ
 ナリシト云ヘリ又昨年中日本ノ製造人カ生糸
 ヲ需求スルノ高大ニ増加セシハ稍々奇事トス
 ルニ足レリ千八百七十五年ノ春ニ方リ生糸ノ

價格非常ニ下落セシヨリシテ日本ノ製造人オ
 ガ生糸ヲ消費スル高頗ブル増加シ外國製ノ毛
 織物ニテ平生容易ニ賣捌ケタルモノト虽氏日
 本産絹綿交織物ノ為メニ其售口ヲ防塞セラル
 ニ至レリ

七八月中新産ノ糸出ツルノ時ニ方リ糸商人ハ
 生糸ヲ買込ニテ横濱ニ輸送センガ為メ陸続内
 地ニ趣キタリト虽氏糸ノ相場甚タ廉價ナルヲ
 以テ日本製造人ノ之ヲ買入ントスルモノ甚ダ
 多ク殊ニ中等下等品ノ如キハ日本製造人ニ壓

セテレテ糸商人等之ヲ買込ムトヲ得ズ而シテ
 内國ノ需要ハ今ニ衰ヘガルカ故ニ日本ノ機杼
 尚ホ引續キテ甚ダ忙ハシキカ如シ之レニ由テ
 之ヲ視レバ久ク下等種類ノ拂底ニシテ其價格
 モ亦漸々ニ騰貴ニ趣ムキタルヲ了知スルニ難
 カラザルナリ

夫レ然リ故ニ千八百七十五年上半期中輸出高
 ノ減少セシ丈ハ國中消費高ノ増加ヲ以テ稍々
 之ヲ償フ可ク且ツ價格ノ低價ナル間ハ日本絹
 高ノ競争ハ恐クハ止マザル可キヲ以テ仮令ヒ

七十五年ノ收穫ハ夥多ナリシト虽氏多クハ内
 地ニ苗マラサルヲ得ズ是以テ千八百七十五
 年ヨリ七十六年ニ渉ル會計年間當國ヨリノ輸
 出總額ハ凡一万四千包ノ平均高ニ超越セザリ
 シヲ推知スルヲ得ベシ

余ハ今七十五會計年間蚕糸貿易衰頽セシ所以
 ノ原因ニ付キ畧其所見ヲ開陳セリ尚ホ又數言
 ヲ附シテ後來ノ景況如何ニ論及セントス而シ
 テ之ヲ為サンニハ欧州ノ蚕糸及ビ養蚕ノ景況
 如何ヲ畧言スルヲ以テ欠ク可ラザルノトス

實ニ千八百七十年以来種類ノ何タルヲ問ハス
 蚕糸ノ價ハ漸々ニ下落シテ今ニ底止スル所口
 無キヲ見レバ其價格ハ已ニ下落ノ極度ニ達セ
 シヤ否ヤ未ダ之ヲ明言スル能ハザルナリ
 日本蚕糸ノ政州ニ需要ナキ今日ノ如キハ未ダ
 曾テ有ラザル所口ナルハ亦疑フ可キニ非ラス
 然ルト虽凡千八百六十年同六十一年ヲ回顧セ
 其價格ノ廉直ナリシハ或ヒハ今日ヨリ甚シ
 キモノアリシト虽凡當時尚ホ製糸人ニ利益ア
 リテ当市場ニ其自製ノ生糸ヲ持来リシト實ニ

鮮角 少ナラザリシナリ而シテ前ニ登セシモノ
 今日ニ再登スル無キヲ保ス可ラズ去レバ日本
 ニ於ケル生糸ノ價格モ此ノ上永ク現今ノ相場
 ニ止マルベシ或ハ生糸ノ需求尚ホ今日ノ如ク
 輸出少ナキニ於テ尚一層ノ下落ヲ来タスモ未タ知ル
 可ラザルナリ
 下等ノ蚕糸ハ從來外國人ノ攪作レテ顧ミザル
 所口ト虽凡日本製造人ハ良好ノ品種ヲ要セザ
 ル機杼ニ恰合セルヲ以テ敢テ之ヲ拒マザリシ
 且ツ前段已ニ載録シタル如ク挽^晚近時様ノ變遷ヨ

リ下等品類ニ外國人ノ需求スル所トナレリ
 故ニ日本製造人ハ現ニ外客ト競争セリ且ツ西
 洋風製糸場ノ設立前ニハ太クシテ下等ナル糸
 ヲ取りタル蘭モ今ハ大抵之ヲ右製糸場ニ於テ
 製作スルヲニナリタルヲ以テ曾テ日本ノ日用
 ニ供セモモ、今ハ精良ヲ極メ操方モヨク隨テ
 直段モ高價ナルヲ以テ日本日用ニハ反テ不使
 トナリ自然ニ之ヲ放棄スルノ姿トナリタリ然
 ルニ之レニ及シテ下等糸ノ賣物漸ニ減少シ價
 格モ隨ツモ騰貴セリ是ニ依テ之レヲ視レバ地

方ノ糸商ハ態ニ横濱ニ來テ外人ト競争シテ生
 糸ヲ買込ミ之レヲ内地ニ持帰りシトノ、ハ実
 ニ確報タル亦以テ徵スニキナリ夫レ斯クノ如
 クナレバ当市場ノ價格ハ此需求ノ續ツク以上ハ
 依然トシテ變動セザルヤ必セリ
 後令ニ以上述アルカ如ク下等糸ノ賣物漸ク減
 少スルアリト虽モ尚ホ日本内地ニハ未ダ糸ニ
 製セザル巨額ノ蘭在ルアリテ早晚糸トナリ或
 ニハ織物トナリテ当市場ニ出ツルカ若クハ内
 地ノ市場ニ賣レ出スヤ昭々乎トシテ明ナリ加

之ヲラズ操糸ノ上等品ハ仮令と昨今ノ處ニテ
 ハ所持人之レヲ販賣ナルヲ欲セズト虽氏到
 底稱久敷之レヲ持堪ユルヲ能ハズシテ價格ノ
 高低ニ論テ時價ヲ以テ早晚之レヲ販賣スル
 一ニ至ル可シ日本ニ於ケル生糸貿易ノ景况大
 畧斯ノ如シ然リ而シテ欧州ニ於テハ生糸貿易
 ノ景况一樣ナラズ先ツ第一ニハ近来諸國ニ於
 テ現ニ巨額ノ蚕糸アリテ亞細亞全樣歐洲年々ノ
 増加ハ亦盛ナルモノナリ
 仮令と昨年一昨年ハ蚕糸支消高ノ増加セシハ

前年曾テ見ザル割合ニ及ビタリシト虽氏一体
 ニ諸國ノ製産高支消高ヨリ超越セシハ亦疑ヒ
 ナシ畢竟生糸ノ價格絶ヘズ下落シテ既ニ昨今
 ノ如キ千八百四十八年以降曾テ聞知セザル點
 ニ届キタルモ全ク之レカ為メナリ而シテ当今
 ノ勢ヒニテハ生糸ノ價格常ニ壓迫セラレテ其
 製産ノ費用ヲ償ハザルヲ顧ミルニ違マアラザ
 ルカ如シ
 欧州大陸ノ各市場ニ於テハ生糸ノ價格倫敦ヨ
 リモ尚ホ一層下落セリ殊ニ「里温」ニ於テハ最モ

甚シトス其然ル所以、理ハ亦以テ見易キナリ
 試ニ者ヨ仏國ニハ自國製造ノ生糸アリ然ルニ
 自國ノ用ニ供スルノ外尚ホ里温府ノ如キハ伊
 太利亞産ヲ買ヒ入レタルノ實ニ夥シク此ノ内
 英國ニ入ルモノ極メテ僅少ナルニ千八百七十
 五年ニ於テハ日本支那兩國ヨリ輸出セシ生糸
 五分ノ三ハ佛國或ハ其他歐洲大陸ノ市場ニ入
 リタリ斯クノ如キハ殆ンド從來ノ割合ト相及
 スルモノニシテ平生ニ在ツテハ佛國或ヒハ其
 他歐洲大陸ノ市場ニ輸入スルモノ五分ノ二英

國ニ運送スルモノ五分ノ三ノ割合ナルナリ
 夫レ斯クノ如キノ變化ハ全ク不利ニ属スルモ
 ノ、如シ蓋ヒ里温府ノ如キハ枚機高賣ノ市場
 ニアラステテ消費ヲ待ツテ商ヲ営ムノ市場ナ
 リ一体佛商ハ倫敦ノ商賈ニ比スレバ不才ノ然
 ラシムルニ依ルガ或ヒハ嫌懼スルニ依ルカ倫
 敦商賈ノ如ク其貨物ヲ久シク持堪ユルノ能ハ
 ザルヨリ一般ニ佛商ヲ以テ容易ニ手離スヲ好
 ムノ商賈ト見做スニ至レリ殊ニ千八百七十五
 年下半期ノ如ク貨物ヲ其手ニ蓄積スル中ハ其

品

之レヲ販賣セント欲スルヤ最モ急遽ナリ故ニ
 佛蘭西伊太利ノ産出夥シキガ上ニ日本支那西
 國ヨリ輸送到達スルモノモ亦甚ダ多キヲ以テ
 里温府ノ高賣ハ争テ其所持ノ生糸ヲ手離サシ
 ガ為メニ強テ消費人ニ勸メ低價ニテ之レヲ押
 賣セントスルノ勢ニ至リ現ニ其所持品ノ中
 伊太利佛蘭西兩國製最上ノ糸ノ如キモ一時更
 ニ需求ナカリシハ前文既ニ之レヲ畧述シ
 タル如シ是ニ於テ糸ノ價格漸々下落シテ始メ
 底止スル無キカ如シ仮令々輓近之レヲ止ント

スルニ盡カセシト虽氏未ダ其微功ヲ奏セシ
 ナケ且ツ将来トテモ到底功ヲ奏スベキノ目途
 ナシ倫敦ノ市場ハ歐洲ノ市場ニ比スレバ此等
 ノ事故ニ感觸スルノ稍ニ輕シ是レ蓋シ其賣品
 ノ里温ヨリ少キカ故ナリ然レ氏又歐洲ノ買手
 ハ前文ノ如キ景況ナルガ故ニ固ヨリ英國ニ求
 ムルニ及バズ而シテ獨リ英國ノ買手ノモニ
 ハ此高賣ノ景況ヲ活澄盛昌ナラシムルノ能ハ
 廿九ナリ
 余ハ暫テク茲ニ産出ノヲ論セン以太利佛蘭西

ノ兩國ニ於テハ蚕繭ヲ販賣スルニ千八百七十
 五年ヨリモ更ニ貴キ價格ヲ得ルニアラサレバ
 養蠶人ハ其費用ヲ償フテ得サルナリ然レ氏
 下落ノ勢ト實ニ前文ノ如キカ故ニ之レヲ購買
 セシ製絲人ホ其原價ヨリモ一割乃至一割五分
 ノ安直段ニテ其品ヲ賣却セサルヲ得ズ是ニ依
 テ之ヲ觀レハ製絲人ホ千八百七十五年ニア
 ヲテ繭ヲ購買シテ損失セシ所ハ千八百七十六
 年廉價ニテ蠶繭ヲ買ヒ以テ前年ノ損失ヲ償ハ
 ント欲スルモ亦自然ノ勢トナリ

然レバ以太利佛蘭西兩國ノ養蠶人ハ昨年其業
 ノ利アラガリシヲモ顧ミス今年亦此業ニ從事
 セント欲スルカ將々寧口養蠶ノ業ヲ止メテ他
 職ニ移轉セント欲スル乎此疑問ハ宜ク熟考ス
 ベキモノナリ然リ而シテ詰リ之レヲ概論スレ
 バ収獲不足ヲ生スルニアラザルヨリハ養蠶ノ
 業ヲ振興スルニ至ラカルヲ知ルベキナリ

千八百七十五年中蠶印^印ノ日本ヨリ歐洲へ輸出
 セシモノ至テ少ナカリシト其種質ノ不確ナル
 ト及ビ養蠶ノ時節ニ際シ天氣不順ナルトニ由リ

品

或ハ今年ノ收穫不足ナルベキトヲ論ガル者
 アリ然レモ果シテ收穫ノ不足スベキヤ否ヤハ
 未タ確言スベカラス夫レ當今歐洲大陸ニ於テ
 蠶絲ノ支消甚々増加シテ先例ナキニ至リレハ
 全ク其價格ノ廉賤ナルニ由ルモノトス故ニ直
 段今ノ如クナレバ支消モ亦今ノ如ク若シ直段
 昇騰スレバ則チ售價隨ツテ減少シ支消産出平
 均ヲ得スシテ復其價格ノ下落ヲ起スニ至ル可
 シ是ヲ以テ一時收穫ノ減少スルトアルモ其直
 接ノ結果ハ唯歐洲市場ノ景況ヲシテ確實ナラ

シムルニ止マル可シ
 右論スル所ヲ以テ視レバ昨年中歐羅巴ニ於テ
 絹織物ノ價值^値至廉ナリシト虽モ織物師ヲシテ
 充分ノ利益ヲ得セシメサルノミナラス支消ヲ
 モ相當ニ多クナレシムルト得テ蓋シ時様一
 変シテ毛織物ヲ好ムモノ多ク無地ノ黒絹ヲ好
 ム者ナリ殊ニ亞米利加ノ如キハ其注文スル物
 品ノ減少最モ甚タレク是ヲ以テ織物師ハ己ム
 トヲ得テ自己ノ費用ヲ以テ多ク輸送セシト虽
 モ結局利益ヲ得シハ殆ント稀レナリ

品

抑モ米國需要斯クノ如ク減少セシ所以ハ其輸
 入ニ六割ノ重税ヲ賦課スルニ依ルカ或ハ米國
 織物師ノ競争衰弱セシニ由ルカ將タ米國ノ人
 民毛織物ヲ好ミ絹織物ヲ好マサルニ由ルカ此
 ゴノ事ハ姑ラク措テ論セザルモ米國ハ多年歐
 州ノ機杼ニ利益ヲ與ヘ英仏各國ノ織物師カ最
 モ第一ノ得意先ナリシカ方今ハ則チ漸ク之レ
 ヲ減少スルニ至リタリ且又織物師ハ其荷物ノ
 賣捌ケサルト及蓄積シタル荷物ヲ賣捌ク可キ新
 市場ヲ見出ス能ハサルヲ以テ是レヲ生糸産

出ノ多キニ過クルニ歸シ之ヲ非難スルモノア
 右蚕糸貿易ニ付完陳セシモノハ固ヨリ余カ臆
 測ニ出ルニアラズ本港在留セテ、エハ、ジヤケモ
 ヲト氏ニ聞ク所ニ據テ之レヲ編輯ス全氏ハ其
 子「ロナルド、ジヤケモ」ト共ニ昨年夏中有名
 ナル蚕糸製造地方ヲ巡廻シ其横濱ニ歸ルニ及
 ンデ彼レガ目撃セシ所ヲ語ル實ニ緊要ノ報告
 ナリ子ハ七月三月本港ヲ發程シテ八月十四日
 歸港セリ其巡廻ノ諸國ハ奥州越後信州甲州及

品

武州ノ養蚕地方ナリ

蚕卵紙ハ一

蚕卵紙ハ千八百七十五年ノ輸出高七十二万七
 千四百六十三枚ニシテ其價値ハ四十七万四千
 九百廿一弗ナリ千八百七十四年ノ輸出高ハ百
 三十三万四千六百二十五枚ニシテ其價ハ七十
 三万二千七百七十五弗ナリ
 千八百七十五年當市場ニ出テタル蚕卵紙ノ數
 ハ八十二万枚ニシテ其内輸出セシ數ハ僅カニ
 七十二万七千四百六十三枚ナリ而シテ又其内

五十五万枚許ハ伊太利國へ行キ十五万枚ハ佛
 蘭西へ行キ其餘ハ他ノ諸國へ行キタリ又レ然
 リ故ニ昨年輸出高ノ減少ハ實ニ著シト云フベ
 キナリ

八月ニ至リ欧州ヨリ蚕種商人着港セシト虽氏
 其員數至テ少ク且ツ價格廉ナラガレハ之レヲ
 買フテ欲セズ日本商人ノ種紙ヲ輸送シ来ル
 一通例ヨリ遲ク本港へ来着ノ後モ尚ホ三週間
 近ク之レヲ賣リ出サズシテ外国商人ノ高價ニ之
 レヲ買込マシテヲ希望シタリシ然ルニ外國商

人の廉價ナラザレバ堅ク之レヲ買フコトヲ拒ミ
 タリ故ヲ以テ奥州製白糖ハ一市二十セントヨ
 リ一市六十セントノ價ニ至リタリト虽氏其他
 ハ大抵一枚四十セント乃至六十セントニシテ
 或ヒハ僅カニ二十五セント乃至五セントノ低
 價ニシテ巨額ノ取引行ハレタリ

茶ノ事

茶ハ千八百七十五年ノ輸出高十三万四千四百
 十五擔六十七石(英斤一千七百九十二万一千零
 八十九磅)ニシテ其價四百八十一万三千四百五

十八市ナリ而シテ千八百七十四年間ノ輸出高
 ハ十二万零二百零九擔二石(英斤千六百零二万
 七千八百六十九磅)其價四百八十四万三千三百
 五十七市ナリ

千八百七十五年一月開市ノ直段左ノ如シ

精製上等

品切レ

精製

一擔ニ付五十市ヨリ五十二市(但シ品
 松底)

極上等

全断 四十八市ヨリ五十市

上等

全断 四十五市ヨリ四十七市

中ノ上

全断 四十二市ヨリ四十四市

中等 全断 三十六弗ヨリ 三十九弗
 下ノ上 全断 三十二弗ヨリ 三十四弗
 下等 全断 二十八弗ヨリ 三十弗
 一月ノ内ハ米國ニ於テ茶ニ稅ヲ課スルノ可否
 未ダ一決セスシテ紐育ノ市場大ニ好景氣ナル
 由ノ報ナクシテ以テ買手甚ダ多ク需要頗ブル
 急ナリキ然レ氏良品ハ至テ松底ニシテ且ツ日
 本ノ茶商ハ賣ルルヲ見合セリ
 然ルニ二月初旬ニ至リ紐育ヨリノ電報ニテ茶
 ハ無稅ニナル可シトノ報知アリシ故ニ南賣ノ

景況俄カニ衰萎シ 價格立チテドコ
 ロニ下落セリ(譯者云ク原文ニハ無稅トアレ氏
 恐クハ茶ニ稅ヲ課スルノ誤リナラニ一月ヨリ
 以降新茶着港ノ取引高合計九ソ一万四千貳百
 擔即チ英斤百八十九万三千三百三十三磅ニシ
 テ其内大概ハ茶無稅ノ報公布以前ニ取引セシ
 モノニ係ル
 漸ク四月二十二日頃ニ至リ新茶當市場ニ到着
 セシト虽モ矢張通例ノ如ク僅少ニ止マリ其品
 柄ハ前年ト異同ナキカ如ク然レ氏茶ヲ入レタ

ル上ニテハ稍前年ノモノニ勝リタルカ如ク精製上等茶精製ノ西種ハ前年ニ比スレハ稍少ク其價格前二三年間頗フル廉ナリ而シテ之ヲ製スルニハ餘計ノ雜費ト餘分ノ手間ヲ要スルカ故ニ蓋シ製茶人ニ取リテ利ヲ得ル所ナキガ如シ繼テ當七十五年ニ至テハ又層ノ下落アリ殊ニ下等品ノ如キハ尤モ甚シトス茶商ノ相争ニ相競フ甚シク取引上利アルヲナシ而シテ製茶ノ費用ハ益年大差異ナシ之レヲ買去リシ國ニハ亞米利加合衆國ト加奈他ノ西

國ナリ

銕道ノ事

東京横濱間ノ銕道收入高兩年ノ比較表ヲ示ス
 左ノ如シ但シ銕道ノ長サ十八マイルナリ

乗客

收入金

七十四年 百廿九万二千三百十四人 四万五千四百二十二兩
 七十五年 百十三万二千三百六十八人 四万二千五百七十八兩六十三セント

荷物

收入金

七十四年 不分明 二万五千九百一十一兩
 七十五年 三万六千四百七十五兩 二万九千九百九十八兩十六セント

品

千八百七十四年 收入金總額 四百零五百拾二弗

千八百七十五年 收入金總額 四百三十一百七十六弗七十八セリト

英國船舶出入ノ事

船舶ノ出入ハ郵便船ヲ除キ通常船舶ノ部ニ於
テハ噸数稍増加アリ又郵便蒸氣船ハ出入合セ
テ三艘ノ減少アリト虽モ其噸数ニ至テハ前年
ヨリ稍ニ増加セリ
米國船通常船舶ホノ部ニ於テハ出入共ニ前年
ヨリ八艘ノ減少アリ然レモ其噸数ハ大抵相
同ニ郵便蒸氣船ハ千八百七十五年ノ入港七十

千八

品

九艘噸数二十二万八千七百七十一噸出港七十
七艘噸数二十二万五千五百五十四噸ナリ然ルニ
千八百七十四年ニハ入港ノ数九十六艘噸数二
十四万五千八百五十七噸出港ノ数九十六艘噸
数二十四万五千八百五十七噸ナルヲ以テ千八
百七十五年ハ千八百七十四年ニ比スレバ入港
ノ数十七艘出港ノ数十九艘ヲ減シ噸数モ入港
一万七千八百八十六噸出港二万四千七百の三噸
ヲ減シタリ
斯ノ如ク出入共ニ若干ノ減少ヲ致セン所以ハ當

港ヨリ、神戸長崎ヲ經テ上海ニ往復スル米國太
 平海郵便汽船會社ノ汽船三艘ヲ日本郵便並汽
 船會社ニ三菱商會ニ賣込タルニ由ルモノナリ右
 賣却ハ既ニ去年十月ノ一ニ係ル其後ハ三菱商
 會ニ於テ日本ノ國旗ヲ船上ニ掲ケ間断ナリ航
 海セリ只其ノ中子バカ^ト号一艘ハ三菱商會ノ免
 許ヲ得テ亞米利加ノ國旗ヲ掲ケ以テ太平洋郵
 船會社ニ付屬セリ是米國政府ト談社トノ間ニ
 取結ヒタル條約中少ナクモ一艘ハ横濱桑港ノ
 間ニ往返スル汽船ト共ニ航通スベシトノ契約

ナルカ爲ナナリ
 千八百七十五年間船舶出入ノ艘數ハ大ニ減少
 シタレト之レニ準シテ噸數ノ減少多カラザル
 ハ蓋シ今年間桑港香港及々當港ノ間ニ往復シ
 タル米國並汽船ハ^トシ^ト一^トオス^トベ^トキン^トナ^ト
 ス^トフ^トト^トキヨ^ト一^ト号ノ新船二艘ヲ合セ何レモ巨
 大船舶ヲ用ヒタルカ故ヘナルベシ且ツ又小形
 ノ汽船ハ大概此線路ヨリ退却セシメ桑港ト
 ナ^トマ^トトノ間ヲ往來スル^ト一^トニ限リタリ
 佛國通常船舶^ト一^トニ付テハ一ノ論述ヲ要ス

スベキモノナシ
 郵便蒸汽船ハ出入共千八百七十四年ニ比シテ
 ハ異同ナシト虽モ其噸數ノ多キニ至テハ實ニ
 其推衡ヲ得サルヤ其數字ヲ一目スルモ亦以テ
 驚愕スルニ足レリ七十四年入港ノ數二十七艘
 其噸數二万五千三百七十一噸出港ノ數二十七
 艘其噸數二万六千五百六十噸ナリ然ルニ千八
 百七十五年ニハ入港二十八艘其噸數四万三千
 六百九十四噸出港二十九艘其噸數四万五千三
 百七十噸ナリ故ニ之レヲ前年ニ比スレハ出入

共ニ艘ヲ増シ噸數ハ入港一万八千三百二十三
 噸出港一万八千八百十噸ヲ増加セリ
 此ノ差異ヲ生シタル所以ハ千八百七十四年ニ
 佛國郵便蒸汽船ノ檢量ハ蒸汽機關設置場并ニ
 石炭置場ヲ除キ獨リ荷物積込場ノミヲ算セシ
 ニ千八百七十五年ニハ機關石炭ノ両場所ヲモ
 合セテ檢量セシニ由リナリ茲ニ今比較ノ便
 ヲ與ヘン為メニ千八百七十四年佛國領事館ノ
 檢量法ニ倣テ噸量ヲ舉ルル一右ノ如シ
 佛國郵便蒸汽船ノ入港二十八艘其噸數二万七

千四百二十五噸出港二十九艘其噸數二万八千四百〇七噸ナリ

此ノ他尚ホ各國ノ船舶出入ニ付テハ別ニ論述スベキモノナシ只魯西亜、船舶ハ出入共其負數噸數ヲ減少シタリ諸日本ヨリ輸出シ又ハ國內ニ於テ支消セルトスル重立チタル物産ノ産殖ト製造トニ関シ報告スル所アラント欲シ千八百七十三年始メテ貿易報告書ノ体裁ヲ定メタリシカ今又右ノ体裁ニ倣ヒ茲ニ左ノ三條ヲ加フ即チ菌類砂糖及ヒ綿ノ了是レナリ

前ノ報告書中ニハ蠶糸種紙、茶、煙草、蠟、麻、米及ヒ漆器ヲ登録シ之レニ関シテ論及シタルモノハ悉ク完全ナラスト虽モ然レモ其年々登録報告スルニ足ルノモノタルハ余カ信シテ疑フ容レガル所ナリ
輸出表ヲ參閱スルニ菌類ノ輸出高ハ千八百七十五年間千四百六十一擔七十七斤其價五万二千〇二十四弗千八百七十四年ニハ輸出高千六百〇三擔三十一斤其價格六万千六百五十六弗亦千八百七十三年ニハ輸出高千二百十八擔四

十九斤價三万四千七百七十弗ナリシナリ菌類ノ内
 食用ニ供シテ最モ佳味ナルハ松茸及ヒ椎茸ノ二
 種ナレ氏松茸ハ永ク蓄ヘ難キヲ以テ殆ント之ヲ
 輸出現場ヨリ放擲シタルカ如シ良シヤ巧ニ之
 レヲ乾カシタリ氏干松茸ハ其味ヒ失セテ割烹
 ニ用ヒ難シ之ニ及シテ椎茸ハ生ニテハ余ク香
 味ヲ欠クトモ之レヲ乾カストキハ格別ノ佳
 香ヲ発スルモノナリ
 自然ニ朽木或ハ伐木ニ生スル椎茸ニテハ中ニ
 其需要ニ應スルニ不足ナレバ推ノ木又ハ他ノ

木幹ヲ切リテ之レニ菌類ヲ發生セシムルノ妙
 手段アリ重ニ之レヲ産スル地方ハ大和伊勢三
 河遠江駿河甲斐伊豆常陸陸奥出羽信濃飛騨紀
 伊及ヒ諏訪ノ諸國ナリ
 右ノ國ニテ産スル高ハ実ニ巨額タリト虽其
 他ハ数フルニ足ラス又北海道ノ産モ亦少シク
 之ヲ産出ス元来自然生ノ椎茸モ手作ノ椎茸モ
 其風味ト云ヒ其形容ト云ヒ両ツ十カラ相類似
 シテ左程ノ差違無シ只自然生クモノハ其表蔭
 色ニシテ紫色ヲ帯ヒ裏ト莖ハ白色ナレ氏手作

りノモリハ其形千區ノナリ
 櫛ハ何レノ種類ヲ問ハス大抵菌類ヲ作ルニ適
 シタルモノニシテ為メニ日本人ノ頗フル珍重
 スルモノナリ殊ニ椎木ヲ以テ最トス元來椎ノ
 木ハ地形東西ニ向ヒタル暖地ニ澤山ニシテ長
 廿九十八^ピト乃至十九^ピトニ至ル一^ピト
 小ハ我一尺ニ當ル其葉ハ細長ク薄クシテ且ツ
 硬リ其表面ハ濃綠色裏面ハ稍蒼色ニシテ光
 澤アリ此ノ木ハ一種ノ常盤木ニシテ其木實ハ
 硬キ皮ヲ被リ蒸シテ食スベシ又此ノ木材ハ船

船ノ橈ト為スニ善ク或ヒハ炭薪トスルニ可ナ
 リ
 柏モ亦菌類ヲ生ス此ノ木モ亦多ク暖國ニ成長
 シ其長三十^ピト乃至四十^ピトニ至ルモノ
 アリ其葉ハ食用ニ供シ其木材ハ箕子ヲ製スル
 ニ最モ適スレハ需要至テ多シ
 又椽ト称スルモノモ國中至ル所トシテ生セガ
 ルノ地無ク其長廿八^ピト乃至十九^ピト
 ニ至リ枝葉頗フル繁茂ス其葉ハ稍印形ニシテ
 僅カニ綿アリ実ハ之レヲ搗テ水中ニ漫シ銀^ニ鈍^モ

トナミテ以テ食ス木材ハ多ク船舶ヲ造リ又
ハ車ヲ製スルニ使用ス

菌類ノ製法ハ上ニ掲ケタル諸水ヨリ次ニ記述
スルノ仕方ニ依テ之ヲ得ルナリ

初秋ノ頃ニ至ラバ右諸水ノ中何レニテモ直經
凡五六「インチ」一「インチ」我一寸ニ當ルノ幹ヲ擇

ヒ之レヲ四五「ト」ノ長サニ切割リ又之ヲ一
本ツ、縦ニ四割ニ直チニ鎌ヲ以テ薄ク外皮エ

割サミヲ付ルモアリ或ヒハ其終ニ椴置キ翌春
ニ至リテ深サ七八「インチ」ノ疵ヲ付ルモアリ

斯ノ如ク薄ク敷ケ所エ割キ目ヲ付ケ之レヲ森
林ノ中ノ空氣温氣ノ能ク流通スル所ニ置キ凡

三ケ年ヲ過クレハ大抵朽腐ス茲ニ至リ其甚シ
ク朽腐シタル分ヲ除却シ斜メニ岩ニ立テ掛ケ

置ケハ翌春ノ半頃ニ至リ續々菌ヲ生スルモノ
トス是ニ及テ初メテ之レヲ刈リ集ムルナリ

此ノ朽木ハ高ホ之レヲ保存シ置キ毎朝水中ニ
入午後マテ浸シタル上ニテ取上ケ之レヲ地上

ニ並べ木槌ヲ以テ之ヲ敲キ又以前ノ如ク斜メ
ニ岩ニ立テ掛ケ兩三日ヲ經過セバ復菌ヲ生ス

尤遠別ノ風俗ニテハ其木ノ膨脹スルマテ烈敷
 之ヲ打テ通例ノモノヨリハ一層巨大ノ菌ヲ生
 セシム若シ之レヲ打ツテ鈍中ハ續々小形ノ
 菌ヲ生ス又水ニ乏シキ地方ニ於テハ雨水ヲ貯
 フテ朽木ヲ浸サバル可ラス
 尚ホ又一種ノ製法アリ初切割リタル木ヲ直チ
 ニ地中ニ埋メ後チ一ケ年目ニ至リ之レヲ掘リ
 出タシ前文ニ述ヘタル如キノ手續ニテ之ヲ敲
 キ以テ菌ヲ生セシムルハ是レナリ
 以上ノ仕方ヲ以テ作りタル菌類ハ小屋ノ三方

ニ棚ヲ釣リテ爰ニ菌ヲ載セ下タヨリ火ヲ以テ
 之レヲ乾カシ其後之レヲ小箱ニ詰メ但シ其箱
 ノ底ニハ藁又ハ竹筵ヲ敷置モノトス再ヒ棚ノ
 上ニ積ミ上ケカメテ至ニ相密接シ其温度ノ異
 同ナキ様ニ注意シ棚ノ上下兩段ニ並列シタル
 箱ヲ断ヘテ轉換シ上下ヲシテ普ク之レヲ乾カ
 ス
 又他ノ乾エ方アリ則チ菌ヲ竹ノ細條ニ串キ火
 ノ辺ニ疊子目ノ細カキ籃ニテ其上ヲ覆ヒ温氣
 ヲ外ニ洩ラスナカテシムルハ是レナリ

乾椎茸ハ支那ニテ頗フル之レヲ珍重シ亦日本
 入モ之レヲ用エルト甚々大ナリ且ツ乾シタル
 椎茸ハ其香味ヲ存スルト極メテ久シキカ故ニ
 仮令ト遠隔ノ地ト虽モ之レヲ運輸シテ少シノ
 妨ケ無シ

椎茸ノ外尚ホ日本ニ於テ食用トナルベキ菌類
 ハ春夏秋共桑柳及ト其他ノ諸木ニ生スル「キク
 ラゲ」ナリ其形ナ小ニシテ薄ク且ツ軟性ノモノ
 ナリ其縁ハ鳶色ニシテ捲キ縮モ天日ニ乾スル
 ハ其表面ハ真黒ニ成リ裏面ハ鼠色ニ変ス其香

味佳美ト云ヒ難シ

岩茸ハ常ニ塊ヲナシテ巖石ノ上ニ生ス

「ヨ」茸ハ香味頗フル多キモノニシテ峻峻ナ

ル岩石ノ間ニ生ル之レヲ得ル實ニ容易ナラサ

ルヲ以テ品至テ少ナシ

「カ」茸ハ沼池ボノ日蔭ニ生ス其莖長ク凹ミ管

ノ如キ形ナリ

砂糖ノ事

砂糖ヲ産スルハ重ニ伊勢尾張遠江駿河安藝紀
 伊讚岐土佐肥前及ヒ薩摩ノ諸國ナリ就中讚岐

ハ最上ノ白砂糖ヲ生シ薩摩ハ良キ黒砂糖ヲ生
 スルヲ以テ聞ユ又日本ニテ甘蔗ハ長サ九十
 一トニ至リ花ハ咲クトナシト云フ
 今茲ニ砂糖ノ作り方ヲ述ベシ
 氣候漸ク寒ク初冬ニ入りタル節甘蔗ヲ小把シ
 莖ヲ下ニシ根ヲ上ニシテ凡ソ四十五度ノ斜線ニ植
 付ケ翌春之ヲ掘出シテ節ノ上下九二^一インチ
 位ニ切り量目九九百磅(一磅ハ我百二十一匁六
 分)ヲ地坪一^一エークル(我四段十八步餘)ノ四分ノ
 一ノ土地ニ植付ケ置キ全時ニ又能ク田ヲ耕ヤ

シ諸所ニ小孔ヲ穿テ中ニ油渣ヲ灌ヒテ土ヲ覆
 ヒ甘蔗ノ根付キ芽ヲ出スヲ待テ直チニ植替ヲ
 初メ全ク植了リタル時僅ニ柔カナル糞ヲ與フ
 ルナリ其後十五日モ過クレバ其萌芽凡七八^一
 ンチノ長サニ生長ス此時魚ノ肥料ト油渣トヲ
 混和シタルモノヲ與フルナリ且ツ夏旱魃ノ時
 節ニハ又水ヲ灌カサル可ラズ而ルニ日本ニハ
 三種ノ惡蟲アリテ甘蔗ヲ害スルト實ニ夥シ故
 ニ之レヲ預防スルノ仕方ヲ設ケサルヲ得ス冬
 ニ至リ十分ニ生長シタル甘蔗ヲ根本ヨリ折ル

カ若シクハ之レヲ鎌ニテ切り取り其葉ヲ払ヒ
 一束量目凡八十磅位ニ把子置クナリ又地坪一
 エ一クルノ四分ノ一ノ地面ヨリ生スル甘蔗ハ
 凡一万〇八百磅許リニシテ之レヨリ得ル所ノ
 砂糖ハ六七擔ナルヲ通常ノ量トナス
 砂糖ヲ絞ル場所ハ大抵凡二十四ト四方モ
 アル小屋ニシテ一軒ノ小屋ニ器械三個ヲ据置
 キ牛ヲ以テ之レヲ動カシ先ツ一度ニ甘蔗凡四
 五本ヲ絶ヘス碓ニ挿込ニ一人後口ニ立テ甘
 蔗ノ碓ヲ脱セサル様ニ注意シ尚ホ此際誤テ碓

ヨリ脱レタル者ハ即チ第一番ノ人之レヲ受取
 リテ碓ノ齒ニ挿込込メハ碓ハ逆マニ回轉ス斯
 ノ如クシテ一片ノ甘蔗ヲモ失フナシ
 諸右ノ如ク絞リタル甘蔗汁ハ一度ニ量目凡二
 百磅位ツ、ヲ他ノ場所ニ運ヒ清潔ニ其器械ヲ
 洗ヒ置クナリ又他ノ場所へ運ヒタル糖汁ハ四
 度以上製法ノ手数ヲ経テ初メテ砂糖ト成ルノ
 場所ニ運フヲ得ル
 先ツ一日ニ量目凡二千二百磅ヲ絞レバ其日ノ
 常職トナス又糖密ハ量目凡百三十三磅ヲ分ツ

テ二桶ニ入レ其一桶ノ密ヲ釜ニテ煮石灰少量ヲ
 加工沸騰^糖シタル中^{スグ}剥^スト取り糖密潔白ナルニ至
 ルヲ以テ煮方ノ十分ナルヲ徴スルノ度トス又
 糖密ノ濃ナルカ若クハ不潔ナルカ如キハ全ク
 石灰ヲ加ヘル^トノ過不及ニ依^テ然ラシムルモ
 十^リ

右ノ如ク煮タル糖密ハ日本人カ澄桶ト称スル
 器ニ入レテ之レヲ落着カシメ又別ニ生糖密ヲ
 釜ニテ煮ル前ノ如沸騰^糖シタル中^ス已ニ煮立テタル
 糖密ヲ混合シ白キ泡ヲ剥^ト之レヲ空虚ノ桶ニ

取ルナリ然ル後ニ糖密ヲ二箇ノ釜ニ分ケ凡ソ
 二時間モ之レヲ煮其間絶ヘス泡ヲ剥^ト取ルナ
 リ
 扱又糖密ノ煮ヘ加減如何ヲ知ラシニハ宜ク竹
 片ヲ釜ニ入レ之レヲ引上ケテ水皿ニ其竹滴ヲ
 落シ若シ其滴直チニ凝結スル中^ハ急速火ヲ引
 キ去リ糖密ハ手早ク之レヲ一組四箇宛ニ並ヘ
 タル清涼器ニ明ケ間断ナク攪動シテ之レヲ冷
 マス^ト十分ナルニ至レバ直チニ之レヲ桶ニ明
 ケ替ユルナリ

最極上ノ砂糖ヲ製スルニハ並砂糖一擔ヲ九分
 シ各麻布ノ衣ニ包モ受器ニ納レテ草キ者ニテ
 曬着シ一夜^{チカス}癸汗セシメ翌朝右ノ砂糖ヲ臺ノ上
 ニテ九二時間モ煉リ又前ノ如ク麻布ニ包ミ三
 晝夜同様ノ手續ヲ掛ケ四日目ニ至リ清潔ノ受
 器ニ取リ上ケ初メテ極上ノ砂糖ト成ル尚^チ精製
 ノモノヲ得シニハ癸汗セシムルト煉ルトノ
 日数ヲ増サザル可ラス
 斯ノ如クシテ並砂糖量目一擔即チ百三十三磅
 ヨリ最上品ヲ生スルト九ソ五十磅残八十磅ハ

勿論徒ラニ棄ルトナク日本ニテ一種ノ名アル
 砂糖凡四十磅ヲ取り尚殘餘ノモノハ市場ニ出
 シテ賣捌クヲ得ヘシ
 中等ノ砂糖ヲ¹シエーマイ¹ト云フ之ヲ製スル
 ニハ下ボノ砂糖若干ヲ癸汗スルモノナリ概シ
 テ云ヘハ日本ニテ砂糖ノ種類ニ三ツアリ即
 千白黒氷砂糖即チ是レナリ尤モ白黒ノ二種ニ
 ハ尚種々ノ名称アリ黒砂糖ノ澤山産スル土地
 ハ琉球櫻島荒木花岡更養津ナリト云フ
 元來黒砂糖ノ種類ニハ甚シキ差別アリ此全

ク甘蔗ノ性合ヒト之ヲ製造スルモノ、巧拙ニ由テ起ルモノトス然レ氏茲ニ梶ケタル場所ハ孰レモ上品ノ砂糖ヲ生スルヲ以テ常ニ声名ヲ失ハズト云フ

氷砂糖ヲ製スルニハ極上ノ砂糖ヲ煮立テ之レニ鶏卵ノ白^身ヲ加ヘ長サ一寸許リニ切リタル新竹ヲ其糖水ニ投シ其廻ハリニ凝結セシムト云

大阪ヨリモ澤山ニ砂糖ヲ産出ス

日本産ノ砂糖ハ支那産ニ匹敵スルニ足ラサル

乎若クハ供給僅少ニシテ其需要ニ應スルニ足ラサルカ支那ヨリ日本へ輸入スル処口ノ砂糖ハ當港輸入表中常々重大ノ件目ヲ占メタリ

棉ノ事

棉ノ樹ハ元来日本ノ國産ニアラズ紀元第七百八十二年同第八百零五年ノ間ニ於テ日本某地ニ輸入セシトノ事ナリ然レ氏一般ニ言傳フルモノニ概レバ一千五百五十八年ト一千六百零九年ノ間タニ輸入セリトス其後屢々ニ之ヲ培養シ殊ニ南方沿海ノ諸國ニ多シト云當今ニ及

ンテハ日本中ニ各種ノ棉樹アリテ特別固有ノ
養質⁴⁷有スルモアリ或ハ然ラサルモアリテ一
様ナラス

諸棉樹培養ノ方法ハ地味ノ善惡ニ從ヒ各地一
様ナル能ハスト虽遠江ノ國ニ於テ施行スル処
ノ方法ハ一般ニ之ヲ適例トセリ今試ニ此^レヲ
畧述セン

柳遠江ノ國タルヤ其地質三分ノ一ハ砂土ナル
ヲ以テ最モ棉樹ニ適當ストナセリ諸棉種ハ夏
ノ首メニ於テ小麦畑ケノ畦ニ善ク肥料ヲ為シ

タル後之ヲ播クヲ以テ例トス棉ノ肥料ハ藁灰^藁
油渣裁リ碎キタル雜草米糠並ニ沼土ノ五種ヲ
等分ニ混和シ日數凡十日間度々之ヲ攪交^攪之
ヲ用ユルマテニハ凡五十日モ其俵々置キ此^レ
ヲ畑ニ布クニハ手ヲ以テ落スヲ常トス此^レ田
舎ヲ遊行スルノ人目撃スル所ナリ棉種ハ一日
一夜水ニ浸^浸タシタル上取り上ケテ藁灰ニ交セ
甲乙適宜ノ距離ヲ隔テ、蒔キ付ケ厚^藁凡五分
程ツ、土ヲ覆ヒ置クナリ但シ輕ク地ヲ踏ミ付
ケルヲ良シトス如斯蒔付置ク時ハ四五日ヲ歷

品

テ萌芽ヲ出タスベシ
 小麦ヲ父上ケタル後ハ若キ棉ノ木ヲ撰抜キ
 軟カナル肥料少シ許リヲ與ヘ其後長四「インテ」
 程ニ伸ヒタル所ハ再ヒ魚油渣、酒渣ヲ細末ニ
 シタル肥料ヲ与ヘ六七「インテ」ニ伸ヒタル穂
 先キヲ撮マシ又薄ク肥料ヲ与ヘ其後ハ又枝小
 枝ノ穂ヲ摘ム所前ノ如シ
 花モ追々ニ咲キ終リ種穀モ日ニ熟スレバ自然
 ニエミ破シテ棉ヲ露出スルニ至ル此時取上ケ
 テ大陽ニ晒ラシ器械ヲ用ヒテ種ト棉ヲ取り分

ケ之ヲ打キ初メテ仕上済ニノ棉ト称スルニ至
 ル棉ノ作り方大畧如斯
 神戸港輸出表ヲ閱スルニ去年ハ若干ノ棉ヲ輸
 出シタリ又支那ヨリ日本へ輸入スル生棉ハ報
 告各中相應ノ巨額ヲ占メタリ一千八百七十五
 年横濱へ輸入シタル惣高ハ九千七百四十九擔
 九十七斤其代價十萬零七千九百七十九弗ニシ
 テ之ヲ前年ノ輸入高ニ比較スレハ甚タ減少シ
 タリ

品

木綿織物
金巾
更紗
木綿糸
雲齋木綿
手拭
綿子
生金巾
晒金巾
染金巾及白綾金
小巾金巾
緋金巾
綿天鵝紙
綿綿絆股引
綿織物
唐棧
合計

品

毛織物
ブランケット
旗布
カムレット
カムレットエルト
チエツキルストルス
羅紗
フランネル
縮緬吳呂服
毛製玩弄物
合計

耳白=美
薄=中

在神奈川英國領事

ロベルトソン

第一号
 千八百七十五年十二月三十一日一週
 年間 神奈川港 輸入物品表
 (但シ英國其他諸州ヨリ)

品名	數	量	元價	串
木綿織物之部				
金巾	ヤルド	一,二九八,二八〇	一〇九,〇七七	
更紗	ヤルド	一,五九六,三三八	一二三,三八	
木綿糸	ピヤル	一三三,九六一,〇四	三,九六一,八六四二	
雲齋木綿	ヤルド	一七六,一六八	一二,二三五	
手拭	ドースン	一六,七八八	七,八六五	
綿繻子	ヤルド	一,一〇〇,〇九三	一六二,九二二	
生金巾	ヤルド	三〇,一七二,五五〇	一,〇〇,八〇二	
晒金巾	ヤルド	四一,二,五五四	二五,五一四	
染金巾及白綾金巾	ヤルド	一四九六,八六八	一二六,三三二	
小巾金巾	ヤルド	九六五,六六六	七一,一六九	
緋金巾	ヤルド	一,七九〇,八一二	一六二,七六三	
綿天鵝絨	ヤルド	一,八〇七,六三九	四四五,七四七	
綿繻絆股引	ドーズン	六,三八二	五〇,五七九	
綿織物	ヤルド	八二五,六二二	八一,六五八	
唐棧	ヤルド	一,二五二,三七八	二五七,九一五	
合計			七,二九九,六〇三	

品名	數	量	元價	串
毛織物之部				
ブランケット	ピヤル	二,五九一,六二	一三〇,六四六	
旗布	ヤルド	一七,七三六	四,九二六	
カムレット	ヤルド	一〇六,五二六	二九,九二三	
カムレットコルド	ヤルド	一〇〇,四九三	一九,七二一	
チエツキルストルス	ヤルド	五七八,〇三二	一一二,六六三	
羅紗	ヤルド	六八,五九八	八七,三七七	
フランネル	ヤルド	八七,九六二	二三,七二七	
縮緬吳呂服	ヤルド	一〇,一九七,一七二	二,三九三,一五七	
毛製玩弄物	ヤルド	二六五,六四八	六五,四〇三	
合計			八六七,五四三	

續

品名	数量	元價	市價
毛綿交織物之部			
毛綿子	ヤルド	七五三,一五六	一九八,〇一三
ルトルスオルレンス	ヤルド	三,四九三,三八二	五七七,三四〇
毛綿交織物	ヤルド	一,一三九,〇九〇	二九四,五五八
綿絆股引	ドーゲン	二五三	二,四八一
合計			一,〇七二,二九九

品名	数量	元價	市價
金屬之部			
熟鐵	ピョル	一一六,八八九九〇	四二四,〇八九
鐵塊	ピョル	一八,二五四,六一	二四,九七八
鐵板	ピョル	二,二四九,四一	一七,七五〇
鉛塊	ピョル	三一,一九二	二,三五二
鉛線	ピョル	一,三三三,四五	九,六一一
魚鉛	ピョル	二,三九二,三二	一七,九五三
鋼	ピョル	三,二四〇,五三	二五,一一〇
錫	ピョル	一〇九,一一	三,一七二
錫板	ボツク	二,三二六	一七,〇一七
黃銅	ピョル	八七〇,六五	二〇,六一五
鐵片器	ピョル	三,一七三,五七	一〇,二三二
鐵管			四一,二三三
鐵管板鐵			六,七二七
屋根板鐵			一〇,七一五
鐵螺旋釘			九,五四六
鉛管			一,一五〇
鋼線			八,一五六
合計			六五九,四〇八

Handwritten notes and calculations on the right page, including various numbers and characters, partially obscured by the binding of the adjacent page.

續 幸

品 名	元 價 弗
兵器之部	五
武器	三八,九三五
軍裝	三,九八五
合 計	四二,五二〇

品 名	数 量	元 價 弗
外國雜貨之部		
碗及碗鎖		四,七四六
巴黎品		一,九二一
ビール		五二,三三六
靴 墨		六,八九四
靴及長靴	ペア	九,四一六
書 籍		一一,九六七
釦 鈕		一二,七二三
石 炭	トン	一一,九六六
蠟 燭	ピヤル	九〇,八五
帆木綿	ヤルド	三七四,〇〇一
漆 灰		七八,三八七
衣 裳 類		一一,三八九
船 用 繩	ピヤル	九五,一六二
塞 子		二五,七九三
コルテー		二六,三二八
珊 瑚		四,〇七〇
時 計	ピンツ	二六,一四
毛 氈		一二〇,五四一
		一二四,四九八
		二七,一二〇

申 買
三一〇,八五二
〇四三,七九七
八五五,四九二
一八五,二
二五二,二

申 買
五八〇,四三四
八五五,四二
〇五九,七一
二五三,二
一一六,五
三五五,七一
〇一一,五二
二七一,三
七一〇,七一
五六一,〇二
二五二,〇一
三三二,一四
七一七,六
五七一,〇一
六四九,五
〇五一一
六五二,八
八〇四,五

續キ

品名	数量	元價串
藥種		五一,八一〇
染料		九〇,二三四
麪粉	ピコル 九,五三六,四三	三五,〇六二
家具		二〇,六六二
窓硝子	ケース 八,六九七	二八,八一ニ
硝子器		五八,九〇五
穀物		一,六四七
麻織物		三,三四二
麻		二,七〇一
麻糸用具		四,一八三
工用具		六,五〇二
藍靛	ピコル 二四九,二〇	五,三二二
學術用具		一六,一〇四
學器		五,八一
寶玉		一四,〇一七
石炭油		三三一,九五九
茶鉛	ピコル 九,二九七,一六	一〇九,四四九
麻布	ヤルド 二四四,三〇二	二八,一三三
柔皮	ピコル 九,一八九,二七	二一四,九一〇
櫛		七八,四二九
附木		二五,六六二
鏡		二,〇一三
製藥		二一〇,四一四
白銅	ピコル 三二,四三	三,八一六
ラグルケーチンク油		一,九八八
サラッド油		三,三八四
カストル油		七,七五五

五
五三六
五八
〇二
串
六四六四
一三六
九三三
四八六
三一三
三五三
三二
六三六
三八八
子八三
八三一
二六一
三六
八三三
〇子〇
一四
八五
〇〇

續 井

品 名	数 量	元 價 串
黄 丹 油	ピコル 四,九七二,三九	四〇,三六七
蠟 引 衣		二,九八六
紺 青		一四,八四六
繪 具		二,〇二九
畫		二,三一八
香 具		五,八〇三
鍍 器		一,〇六四
陶 器		八,二二三
文 具		一九五,一六七
哂 哂 吵	ピコル 六六,二三	一八,六〇〇
食 料		一七一,六九八
水 銀	ピコル 二七〇,〇五	三一,九一七
發 尼 涅	ピコル 一八,九六	二九,五一〇
棒 砂 糖	ピコル 一,五四六,〇九	一六一,五五六
香 石 齧		一九,四六二
棹 石 齧	ピコル 四,一二五,九二	二三,七〇九
馬 具		三七,四四〇
海 綿		二,八五八
天 秤		七,〇七五
眼 鏡		三,五九八
絹 織 物		五五,五〇三
絹 綿 交 織 物		一三六,二九五
煖 爐		一,五七九
タル 差 = ピツケ		一,五二四
煙 草	ピコル 八九,六四	四,三九一
浴 用 手 拭		六,一九二
材 木 差 = 板		五,一四二

串
〇一八、一
四三二、〇
二七〇、五
二六六、〇
二一八、
五〇、八
子四六、
二四三、
一〇、子
三八一、
二〇、五
二二三、
四〇一、
一、一八、
子一〇、四
五五、
式四四、
三三一、八
〇一、
式二四、八
二六六、
三一〇、二
四一四、〇
六一八、
八八、
四八、三
五五、

續

品名	数量	元價	弗
角類	ピコル 三三,八〇	一〇,五八三	
象牙	ピコル 五七,〇八	一三,四〇七	
麝香	ピコル 二,〇〇	一一,五〇九	
落花生油		六,六四〇	
豆油	ピコル 六,〇九一,七九	一一,六五四	
籐	ピコル 一,六七五,四五	一〇,六九六	
大黃	ピコル 二三一,六九	四,四四六	
赤砂糖	ピコル 五四一,一五八,七四	二,二五三,四五三	
白砂糖	ピコル 四四,七〇四,八一	三二三,四一七	
氷砂糖	ピコル 二,六六五,八九	二四,三三五	
紅花		三五,五七二	
泊夫藍	ピコル 七七,〇四	七,一七九	
蘇木	ピコル 二,四六九,四一	三,九一〇	
茶葉		二六,九五六	
朱	ピコル 五五〇,六九	六八,一六四	
合計		三,〇〇六,五八三	

前條七口ヲ合シテ統計スル事次ノ如シ

品名	元價	弗
木綿織物	七,二九九,六〇三	
毛織物	二,八六七,五四三	
毛綿交織物	一,〇七二,二九二	
金屬	六五五,四〇八	
兵器	四二,五二〇	
外國産雜料	七,〇〇九,九六〇	
東洋産雜料	三,〇〇六,五八三	
輸入合計	二一,九五三,九〇九	

第二号
 千八百七十五年十二月三十一日=終ル一
 周年間 神奈川港 輸入物品表
 (但シ英國其他諸州一)

品名	数量	元價 市	元價 市
鮑貝	ピコル 二,二二二,九一		四,五九一
糖		一,七六七	
糖器		一四,九五一	一六,七一八
茯苓	ピコル 一,三九四,一二		四,二一五
壳蛹	ピコル 三,五一〇,一一	二四八,四一六	
屑蛹	ピコル 二八,五九	一,〇七一	二四九,四八七
石炭	トン 二,七六八		二三,九五七
銅	ピコル 二,八四一,六五	五五,四六七	
鑄銅	ピコル 四,〇二二,九七	八〇,六九九	
丁銅	ピコル 一,一九五,一九	三一,八七八	
銅器		一,一七五	
銅塊	ピコル 七六七,八七	一五,四九一	一八四,七一〇
綿織物	ピース 三,一〇四		二,四六八
鹿角	ピコル 六四四,九二		五,二五二
藥種	ピコル 四七二,一六		三,三三一
乾魚			
鰯	ピコル 一,七五六,九六	二一,八六〇	
鮑	ピコル 三,三一七,九四	九〇,九〇二	
ビーテメル	ピコル 二八三,六三	九,四六〇	
貝		一〇,七二七	
鱈鱈	ピコル 四一九,五一	八,五六〇	
乾魚	ピコル 三九〇,五三	一〇,七二五	
乾海老	ピコル 八一,〇八	一,一八〇	一五三,四一四
扇子			三三,九四三
ギンナン	ピコル 二八五,八五		一,三七九
人參	ピコル 七三六,五三		一〇八,一四四
寒天	ピコル 六〇六,三七		二二,九四〇

市價
三八五,〇一
一〇,四三
一〇,五一
〇,四六,六
四五六,一
六六六,〇一
六四四,四
三五四,三二
一四,三二
五三三四
二九五,五三
一八四,七一〇
〇,一五,三
六五五,六一
四六一,八
三八五,六
三〇,六,六
三四五,二
二五二,二
八〇,四,五
〇,二五,二
〇,六五,六
三八五,六
一〇,五,三

續キ

品名	数量	元價	弗
漆器			一二八,三三四
製藥			一,四〇五
椎茸	ピコル 一,四六一,七七		五二,〇二四
陶器			四〇,三三九
五外羊	ピコル 二,三五三,九〇		一,五一七
植木			一,五八九
牡丹皮	ピコル 二四二,八四		一,一〇八
食料			五,一七四
板昆布	ピコル 一〇,一二二,六一	一五,六〇二	
刺昆布	ピコル 二,五六九,〇八	八,二七五	二三,八七七
屏風			三,〇三三
生糸	ピコル 一,八一三,八七	五,四二四,九一六	
熨斗糸	ピコル 一,一七五,〇三	一二三,九四三	
真綿	ピコル 三五七,五四	六二,六五六	
屑糸	ピコル 二,六四二,六〇	一〇二,一九七	五,七二三,七一
絹織物			二二,三六二
蚕卵紙	カード 七二七,四六五		四七四,九二一
毛皮			二,三五〇
硫黄	ピコル 四九九		一,三二六
茶	ピコル 三四,四一五,六七		四,八一三,四五八
番茶	ピコル 三,八一七,二九		四七,六七八
粉茶	ピコル 四,二四九,四九		一〇,五八五
茶袋紙			四,二五九
葉煙草	ピコル 五,三八八,一六		四三,九二五
タルロー英ニラト	ピコル 五二一		二,六五八
齒磨粉			一,三〇二
傘	ピース 二一五,二五三		一五,二一二

品名	数量	元價	弗
			一五五,四
			八二六,六一
			五二,〇二四
			四〇,三三九
			一,五一七
			一,五八九
			一,一〇八
			五,一七四
			一五,六〇二
			八,二七五
			二三,八七七
			三,〇三三
			五,四二四,九一六
			一二三,九四三
			六二,六五六
			一〇二,一九七
			五,七二三,七一
			二二,三六二
			四七四,九二一
			二,三五〇
			一,三二六
			四,八一三,四五八
			四七,六七八
			一〇,五八五
			四,二五九
			四三,九二五
			二,六五八
			一,三〇二
			一五,二一二

續斗

品名	數量	元價串	元價串
水蠟	ヒコル 二七〇, 五〇		二, 六四〇
雜貨			二二七, 三九二
合計			一, 四六六, 七三〇

第三号
千八百七十五年間神奈川港出入
外國船舶一覽表

國	入 港		出 港	
	艘 數	噸 數	艘 數	噸 數
英國 通常 船舶	一二八	一〇六, 七六三	一二一	一〇四, 三四七
英國 郵 船	二七	二六, 二三二	二六	二五, 一九九
米國 通常 船舶	二一	一四, 六九二	二一	一三, 六三三
米國 郵 船	七九	二二八, 七七一	七七	二二一, 一五九
仙國 通常 船舶	二	七一一	二	七一一
仙國 郵 船	二八	四三, 六九四	二九	四五, 三七〇
日耳曼 船	三三	一一, 九九三	二八	一二, 一四六
魯 國 船	五	一, 一四四	五	一, 一四四
瑞 典 船	三	三一 二	三	三一 二
丁 抹 船	二	九二 七	二	九二 七
荷 蘭 船	二	三七 四	一	三七 四
合計	三三〇	四三五, 六一三	三一六	四二五, 三一七

品名	數量	元價串
水蠟	二七〇, 五〇	二, 六四〇
雜貨		二二七, 三九二
合計		一, 四六六, 七三〇

日本人賣渡シタル船舶

國	艘數	噸數	價 弗
英 船	一	八九六	一六六,二五〇
米 船	三	五,一〇〇	五八五,八〇〇
合 計	四	五,九九六	七五二,〇五〇

第四号
千八百七十五年間 神奈川港輸
出入貨幣一覽表

輸 入 之 部	弗
英國其他諸州ヨリ	五九,〇〇〇
日本諸開港場ヨリ	九四五,〇〇〇
合 計	一,〇〇四,四〇〇
	弗
	九,七二二,九八六
	一九五,〇〇〇
	九,九一七,九八六

輸出入合計

一〇,九二二,三八六弗

申
〇四六、二
二、三、六
〇三、六

參
姓 船
十四三四〇
九、一、五二
三三六、三
四、一、一
一、一、六
〇、三、五、四
六、四、一、二
四、四、二、一
二、一、三
六、二、六
四、六、三
六、一、三、五、二、四

第五号
千八百七十五年間輸出入收稅
并=出入船舶手数料及倉敷料表

税目	串
輸入税	八〇七,六一七
輸出税	五二七,四〇五
船舶手数料	八,二八五
倉敷料	九,四三六
雜税	六,三九〇
合計	一,三五九,一三三

第六号
千八百七十五年十二月三十一日迄神
奈川港在留英國人并=英國
商會其他外國居留人并=外國商會員數表

國名	人員	社數
英國	六〇二	五六
澳國	一五	三
支那	一,一九二	二〇
丁林	一八	一
荷蘭	七八	三
仙國	一二七	三五
日耳曼	一五〇	二六
布哇	〇	〇
伊太利	一九	六
伯露	〇	〇
葡國	二七	〇

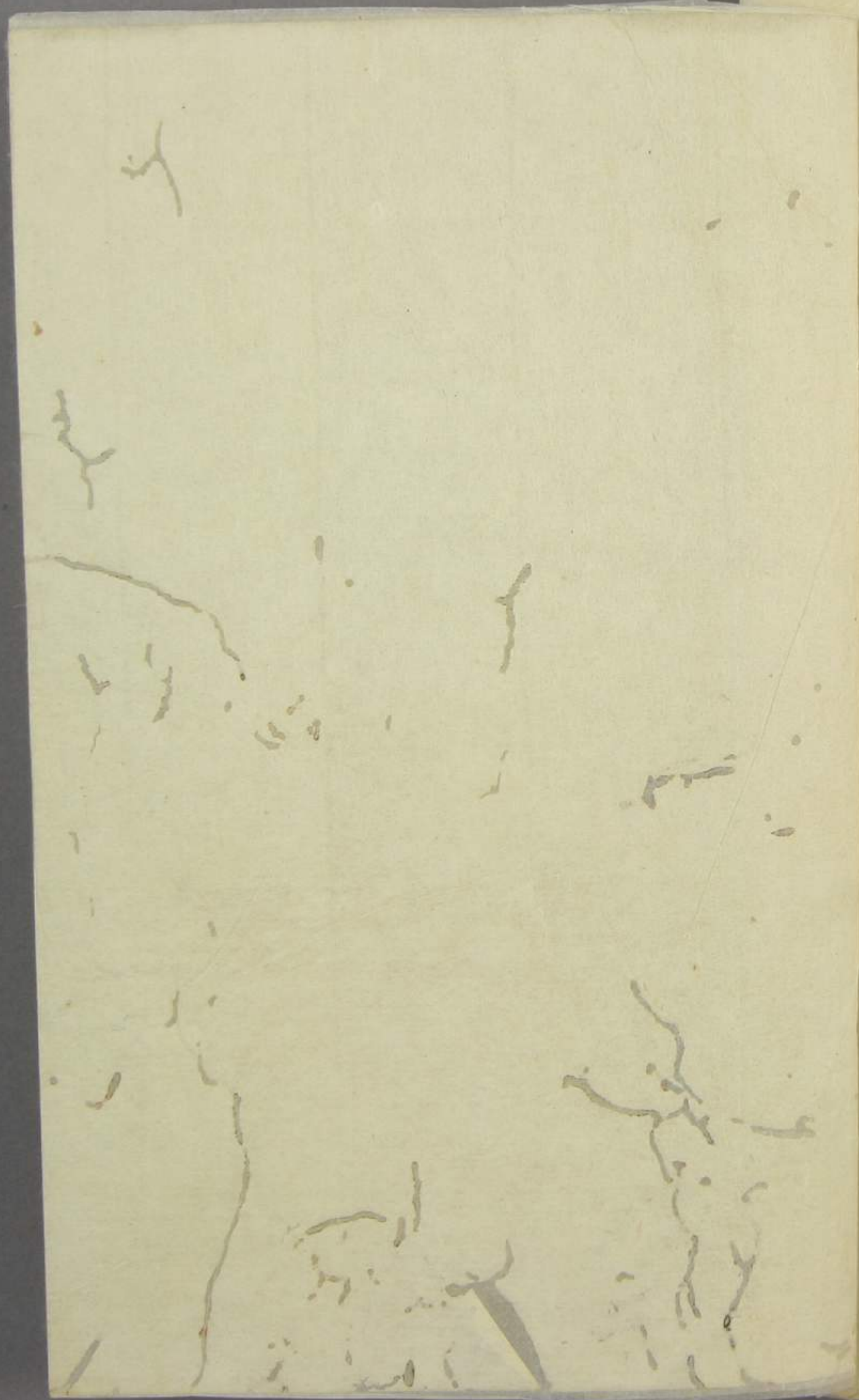
串買
〇五二六六
〇〇八五八
〇五〇二五
串
〇〇〇,四五
〇〇〇,五〇
〇〇四,四
串
六八五,二
〇〇,五五
六八五,
串六八三

魯國	一六	同
西國	四二	同
瑞典那威	一五	同
瑞西	二三	七
合計	二三四二	一六六

但シ米又英ニ自耳義人ハ此表
中ニ載セズ

中
六一六、
五〇四、
五八二、
六三四、
〇、
三三一、

中
六五
三
〇二
一
三
五三
六二
〇
六
〇
〇



同	六一
同	二四
同	一五
子	三二
六六一	二四三二

三三
 未始入齊
 久
 此
 本

六五	六六
三	五
〇二	二
一	八
子	七
五三	三
六一	二
〇	〇
六	〇
〇	〇
〇	〇

